

第2章 各調査の結果

＜図表のみかた＞

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 ％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも 100.0％にならない場合（例えば 99.9％、100.1％）があります。
- 3 年代別、要介護度別などは、不明の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、％の合計は100％にならないことがあります。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。

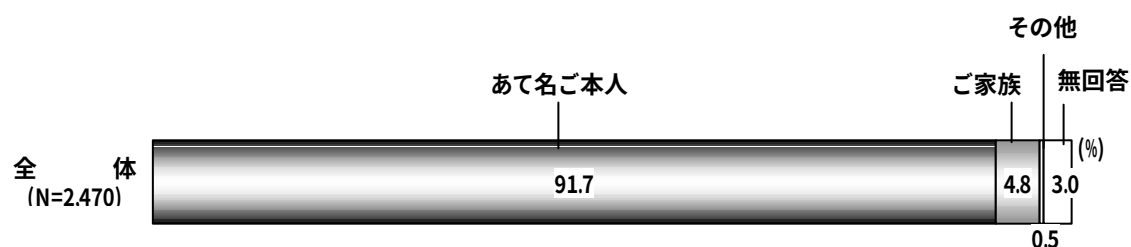
1 一般高齢者調査

(1) 基本属性

① 記入者 (F 2)

調査票の記入者は、「あて名ご本人 (91.7%)」が最も多く、次いで「ご家族 (4.8%)」の順である (図表 1-1-1)。

図表 1-1-1 記入者 (全体)



② 性別 (F 3)

性別は、「男性 (49.6%)」と「女性 (49.4%)」がほぼ半々である (図表 1-1-2)。

図表 1-1-2 性別 (全体)

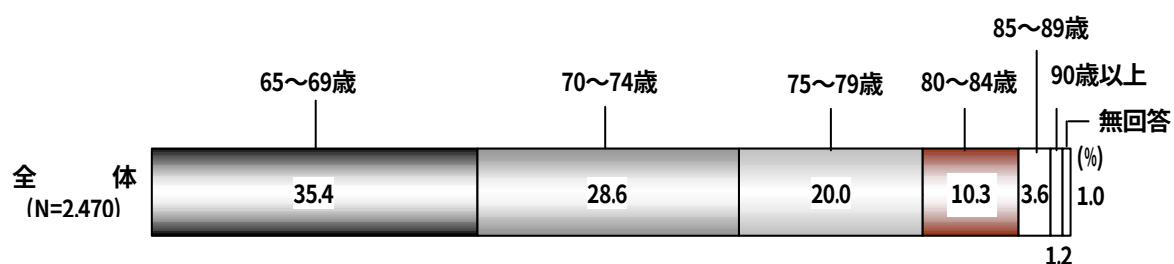


③ 年齢（F 4）

年齢は、「65～69 歳（35.4%）」が最も多く、次いで「70～74 歳（28.6%）」、「75～79 歳（20.0%）」の順である。

前期高齢者（65～74 歳）は 64.0%、後期高齢者（75 歳以上）は 35.1%で、前期高齢者が多くなっている（図表 1－1－3）。

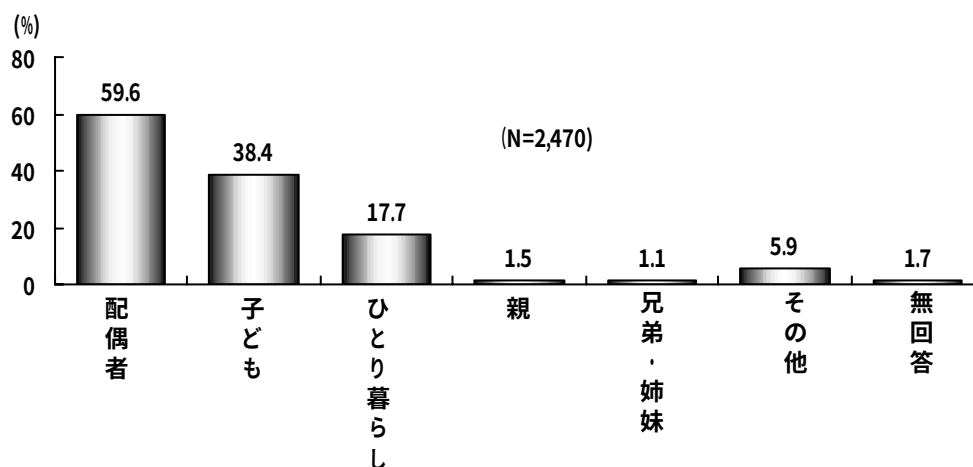
図表 1－1－3 年齢（全体）



④ 同居家族（F 5）

同居家族は、「配偶者（59.6%）」が最も多く、次いで「子ども（38.4%）」、「ひとり暮らし（17.7%）」の順である（図表 1－1－4）。

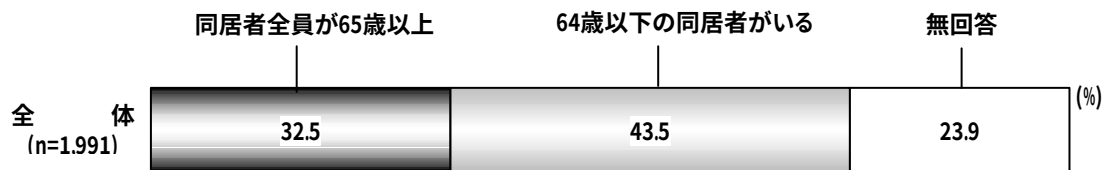
図表 1－1－4 同居家族（全体／複数回答）



⑤ 同居者の年齢（F 5－1）

「ひとり暮らし（自分のみ）」以外で同居家族がいる場合の同居者の年齢は、「64 歳以下の同居者がいる（43.5%）」が最も多く、「同居者全員が 65 歳以上（32.5%）」が続いている（図表 1－1－5）。

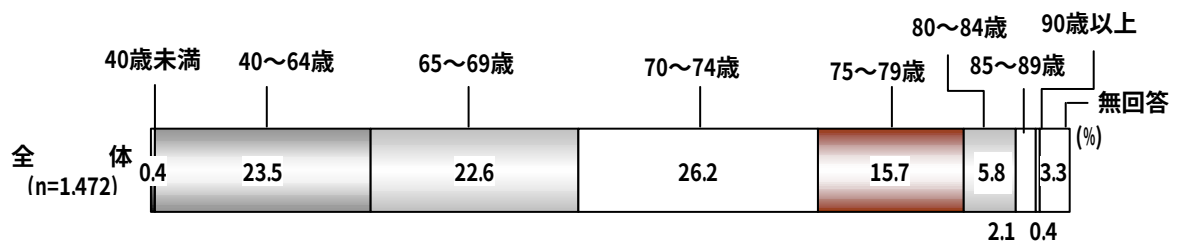
図表 1－1－5 同居者の年齢
＜ひとり暮らし以外と回答した人＞（全体）



⑥ 配偶者の年齢（F 5－2）

「配偶者」がいる場合、配偶者の年齢は「70～74 歳（26.2%）」が最も多く、「40～64 歳（23.5%）」、「65～69 歳（22.6%）」が僅差が続いている。これら 3 つを合わせると、全体の 72.3%になる（図表 1－1－6）。

図表 1－1－6 配偶者の年齢
＜配偶者と回答した人＞（全体）



⑦ 居住地区（F 6）

居住地区は、「第三地区（18.1%）」、「第二地区（17.7%）」、「第一地区（17.4%）」の順に多くなっている（図表1－1－7）。

図表1－1－7 居住地区（全体）

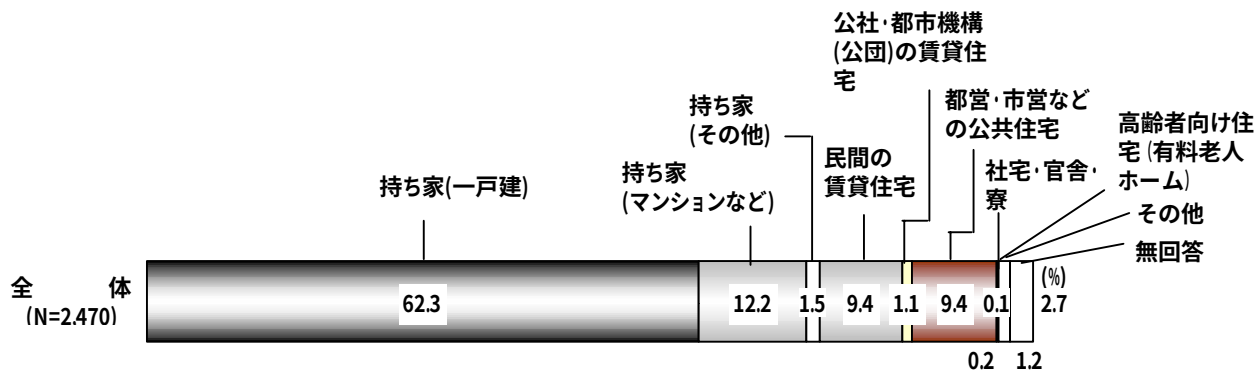


⑧ 居住形態（F 7）

居住形態は、「持ち家（一戸建）（62.3%）」が最も多く、「持ち家（マンションなど）（12.2%）」、「民間の賃貸住宅（9.4%）」、「都営・市営などの公共住宅（9.4%）」が続いている。

「持ち家（一戸建）」、「持ち家（マンションなど）」「持ち家（その他）」をあわせた《持ち家層》は、76.0%と全体の4分の3を占めている（図表1－1－8）。

図表1－1－8 居住形態（全体）



居住地区の区分はつぎの通りである。

第一地区：多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台（1～3丁目）、若松町、浅間町、緑町

第二地区：白糸台（4～6丁目）、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政

第三地区：天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町

第四地区：宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町

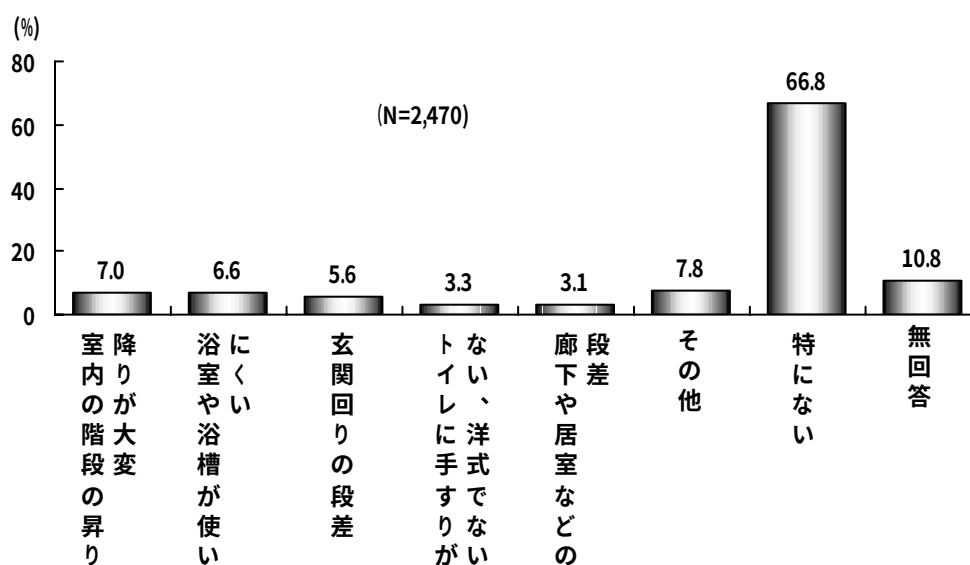
第五地区：日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町（1～2丁目）、本宿町（3～4丁目）、西府町（3～4丁目）、東芝町

第六地区：美好町（3丁目）、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町（1～2丁目）、西府町（1～2、5丁目）

⑨ 住居の問題点（F 8）

住居の問題点は、「特にない（66.8%）」が最も多い。それ以外をみると割合は少ないが、「室内の階段の昇り降りが大変（7.0%）」、「浴室や浴槽が使いにくい（6.6%）」などがあげられている（図表1－1－9）。

図表1－1－9 住居の問題点（全体／複数回答）



(2) 身体状況

① 日常生活動作（問1）

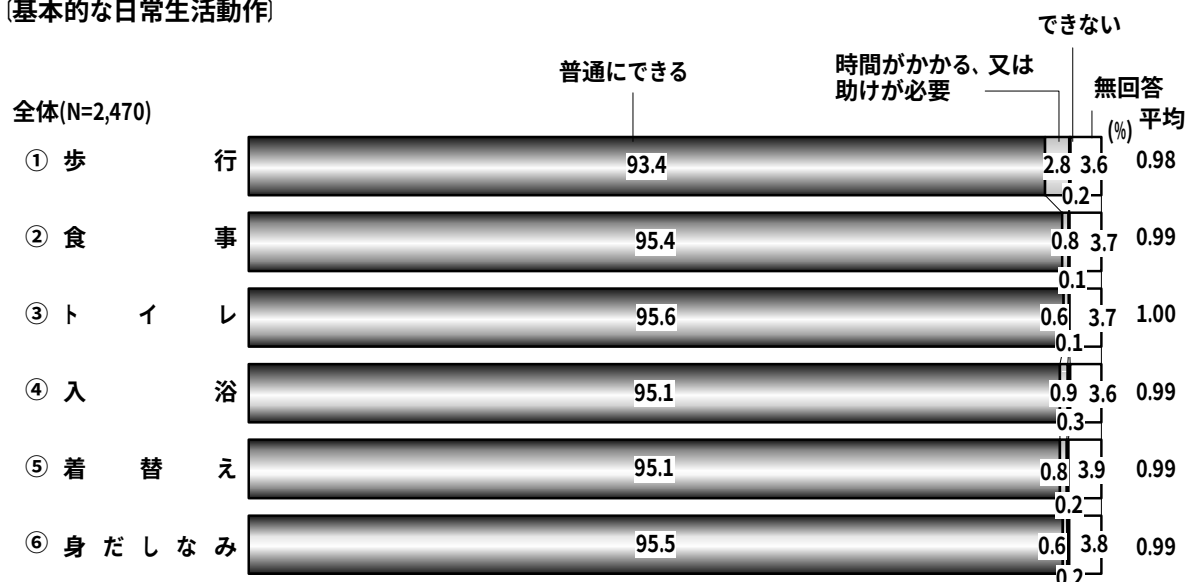
基本的な日常生活動作については、①～⑥までの項目すべてにおいて、「普通にできる」が9割を超えている。

生活に必要な日常生活動作については、基本的な日常生活動作と比べて「普通にできる」割合が少なくなる。中でも『調理』が「普通にできる」割合は83.2%と低い。

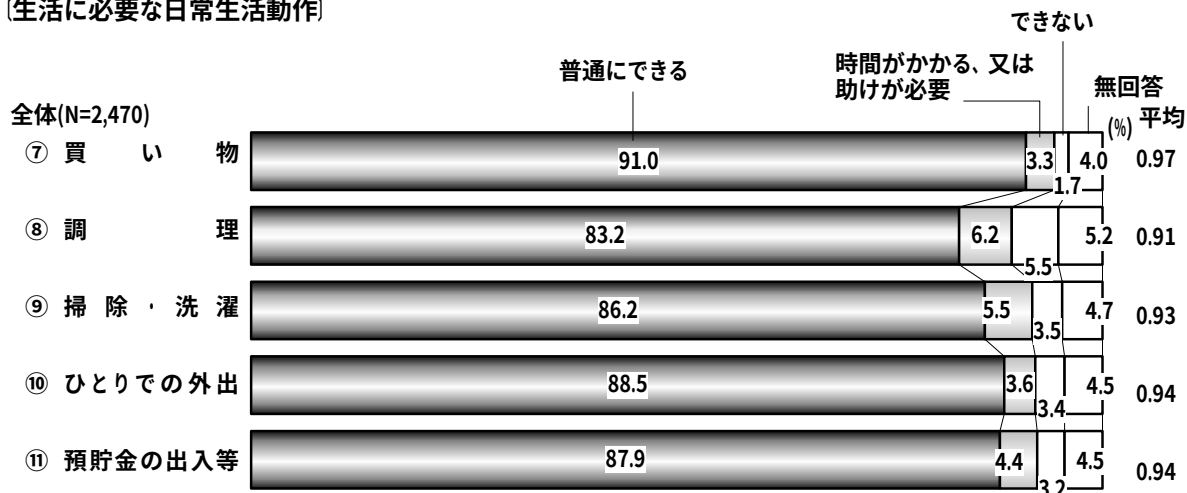
それぞれの項目の回答を「普通にできる（1点）」、「時間がかかる、又は助けが必要（0.5点）」、「できない（0点）」で代表させた平均値（加重平均値）でみると、『トイレ』は最も高く1.00、『調理』は最も低く0.91となっている（図表1-2-1）。

図表1-2-1 日常生活動作（全体）

〔基本的な日常生活動作〕



〔生活に必要な日常生活動作〕



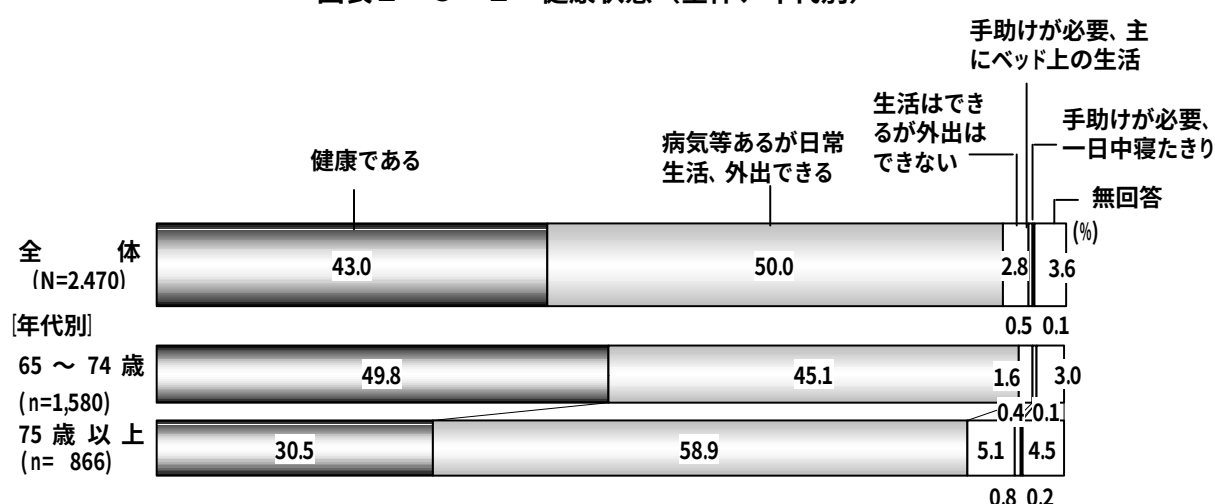
(3) 健康状態・健康づくり

① 健康状態（問2）

健康状態については、「病気等あるが日常生活、外出できる（50.0%）」が半数を占めている。次いで「健康である（43.0%）」が続き、これら2つをあわせると93.0%が《自立》している。

年代別にみると、65～74歳では「健康である（49.8%）」がほぼ半数を占め、75歳以上では「病気等あるが日常生活、外出できる（58.9%）」が6割近くと多くなっている（図表1－3－1）。

図表1－3－1 健康状態（全体、年代別）

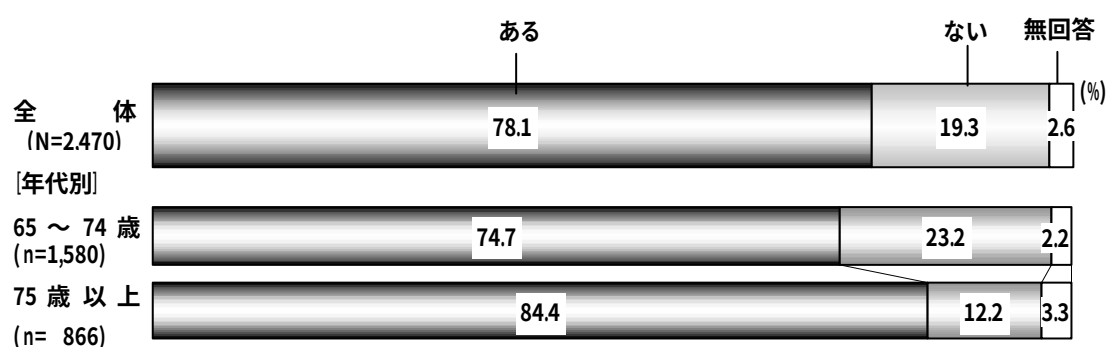


② 医療機関の受診状況（問3、問3－1、ア）

医療機関の受診状況については、「ある」が78.1%、「ない」が19.3%で、圧倒的に「ある」が多くなっている。受診状況が「ある」場合の医療機関の数は、平均で1.9か所である。

年代別にみると、65～74歳では74.4%、75歳以上では84.4%が「ある」と回答し、年齢が上がると受診率が高くなっている（図表1－3－2）。

図表1－3－2 医療機関の受診状況（全体、年代別）

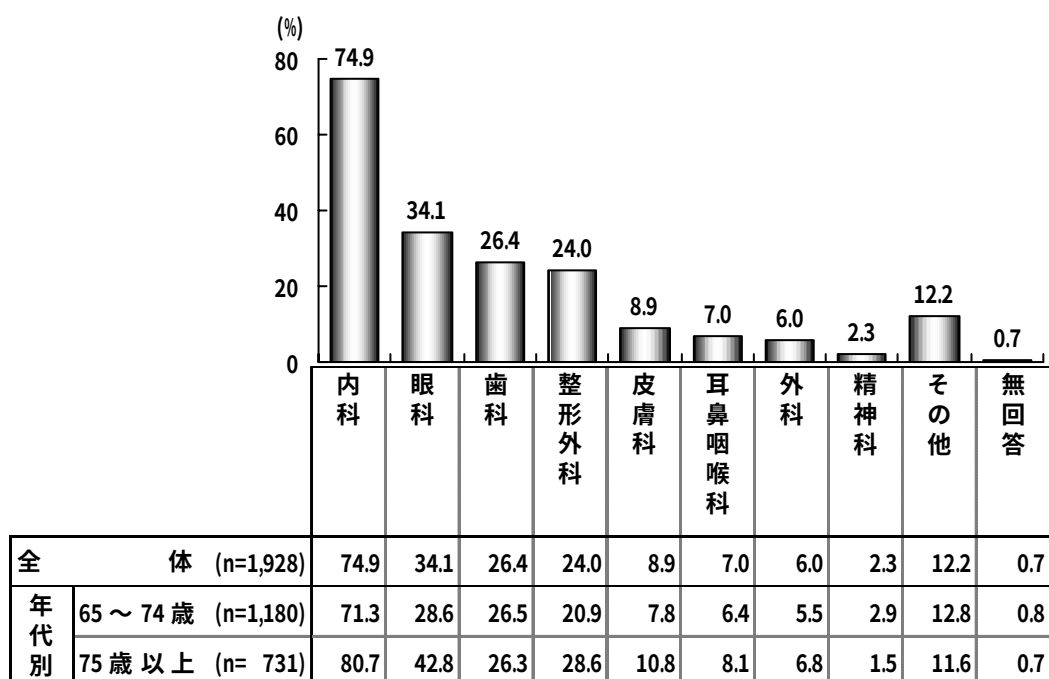


③ 受診している診療科（問3-1、イ）

受診状況が「ある」場合の診療科については、「内科（74.9%）」が群を抜いて多く、次いで「眼科（34.1%）」、「歯科（26.4%）」、「整形外科（24.0%）」が続いている。

年代別にみると、「歯科」と「精神科」以外の項目で 65～74 歳は全体よりも低く、75 歳以上は全体よりも高くなっている（図表1-3-3）。

図表1-3-3 受診している診療科
 ＜受診状況があると回答した人＞（全体、年代別／複数回答）

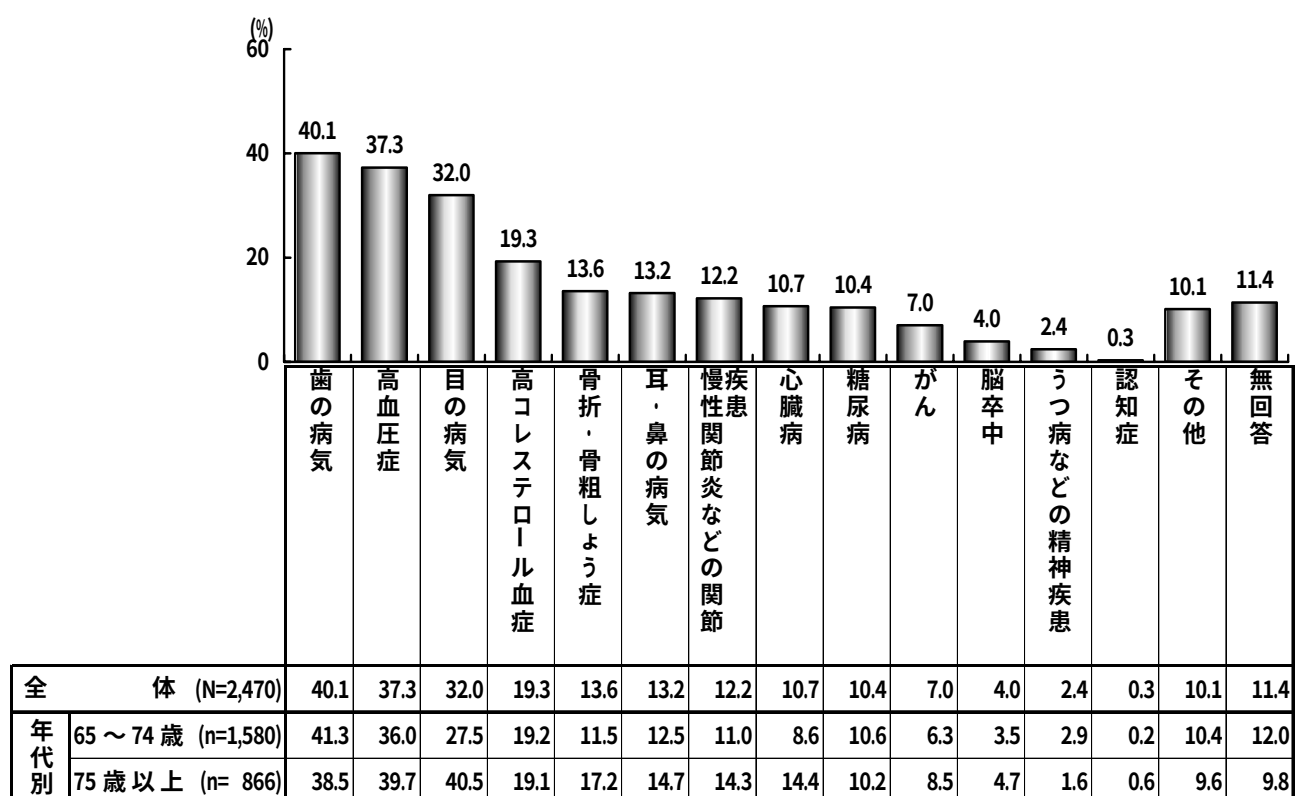


④ 病歴（問4）

病歴については、「歯の病気（40.1%）」が最も多く、次いで「高血圧症（37.3%）」、「目の病気（32.0%）」の順である。

年代別にみると、65～74歳では「歯の病気（41.3%）」が最も多く、75歳以上では「目の病気（40.5%）」が最も多くなっている。その他、75歳以上では「骨折・骨粗しょう症（17.2%）」、「心臓病（14.4%）」が全体と比べて高くなっている（図表1－3－4）。

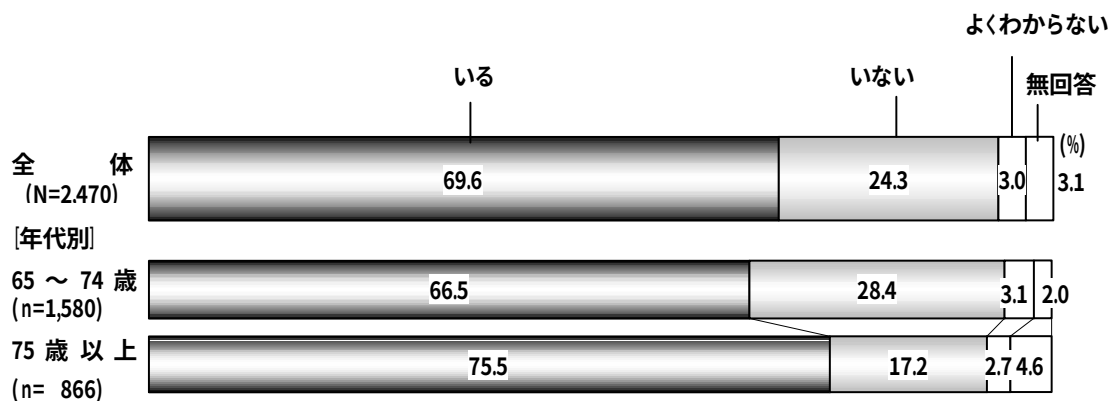
図表1－3－4 病歴（全体、年代別／複数回答）



⑤ かかりつけ医の有無（問5）

かかりつけ医の有無については、「いる」が69.6%、「いない」が24.3%となっている。
年代別にみると、65～74歳では66.5%が、75歳以上では75.5%が「いる」と回答し、年代が上がるとかかりつけ医の「いる」割合が多くなる（図表1－3－5）。

図表1－3－5 かかりつけ医の有無（全体、年代別）

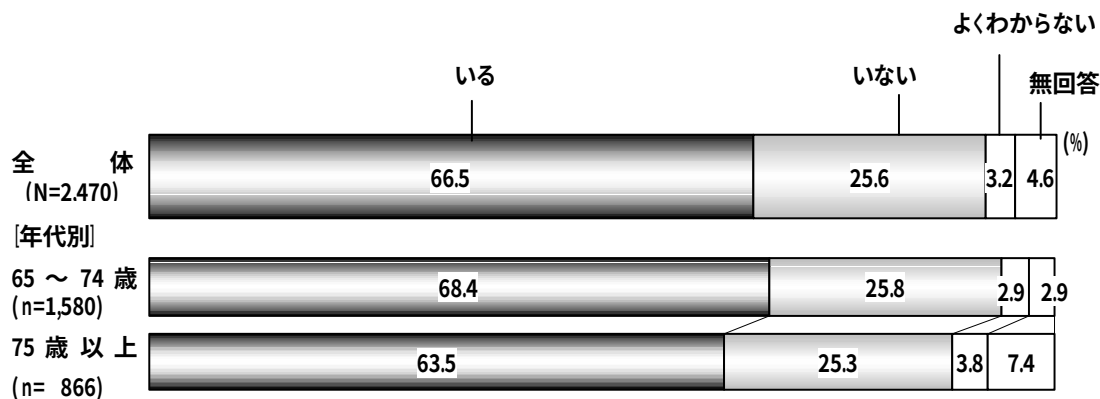


⑥ かかりつけ歯科医の有無（問6）

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が66.5%、「いない」が25.6%となっている。

年代別にみると、65～74歳では「いる」が68.4%、75歳以上では「いる」が63.5%で、年代による大きな違いはみられない（図表1－3－6）。

図表1－3－6 かかりつけ歯科医の有無（全体、年代別）

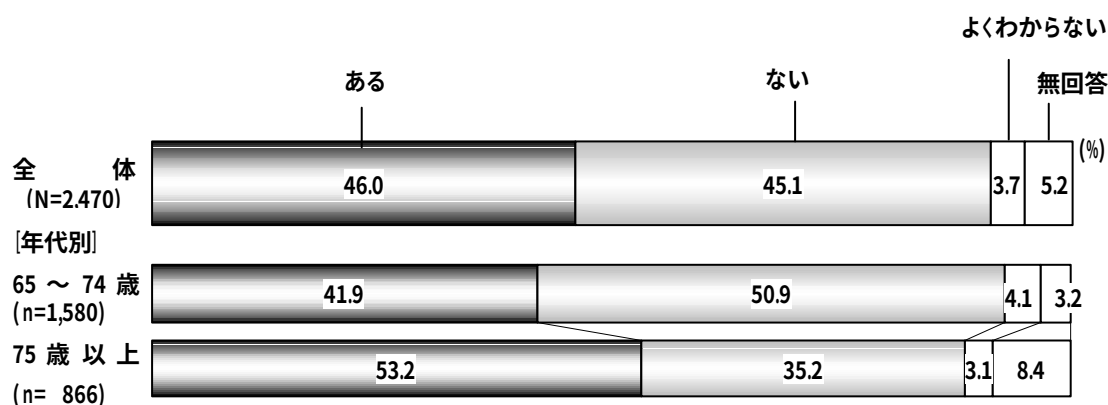


⑦ かかりつけ薬局の有無（問 7）

かかりつけ薬局の有無については、「ある（46.0%）」が「ない（45.1%）」をわずかに上回っている。

年代別にみると、65～74 歳では「ない（50.9%）」が、75 歳以上では「ある（53.2%）」が半数を超えている（図表 1－3－7）。

図表 1－3－7 かかりつけ薬局の有無（全体、年代別）

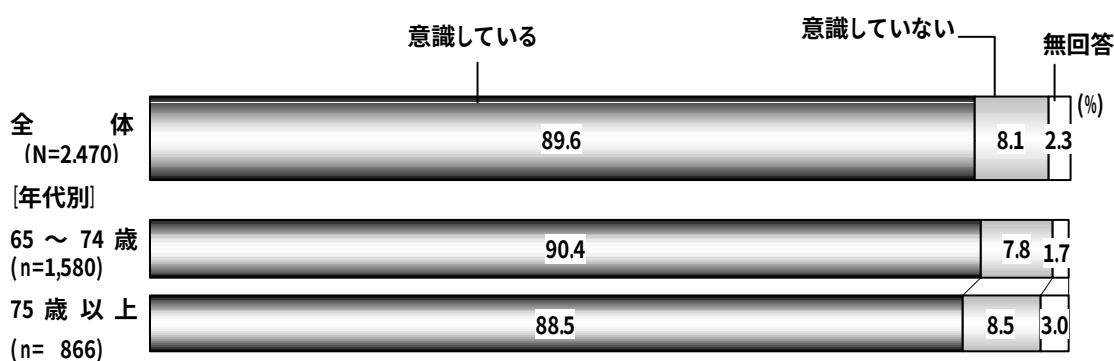


⑧ 健康づくりについての意識（問 8）

健康づくりの意識については、「意識している（89.6%）」が圧倒的に多く 9 割近くを占め、「意識していない（8.1%）」は 1 割に満たない。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに「意識している」割合が高くなっている（図表 1－3－8）。

図表 1－3－8 健康づくりについての意識（全体、年代別）

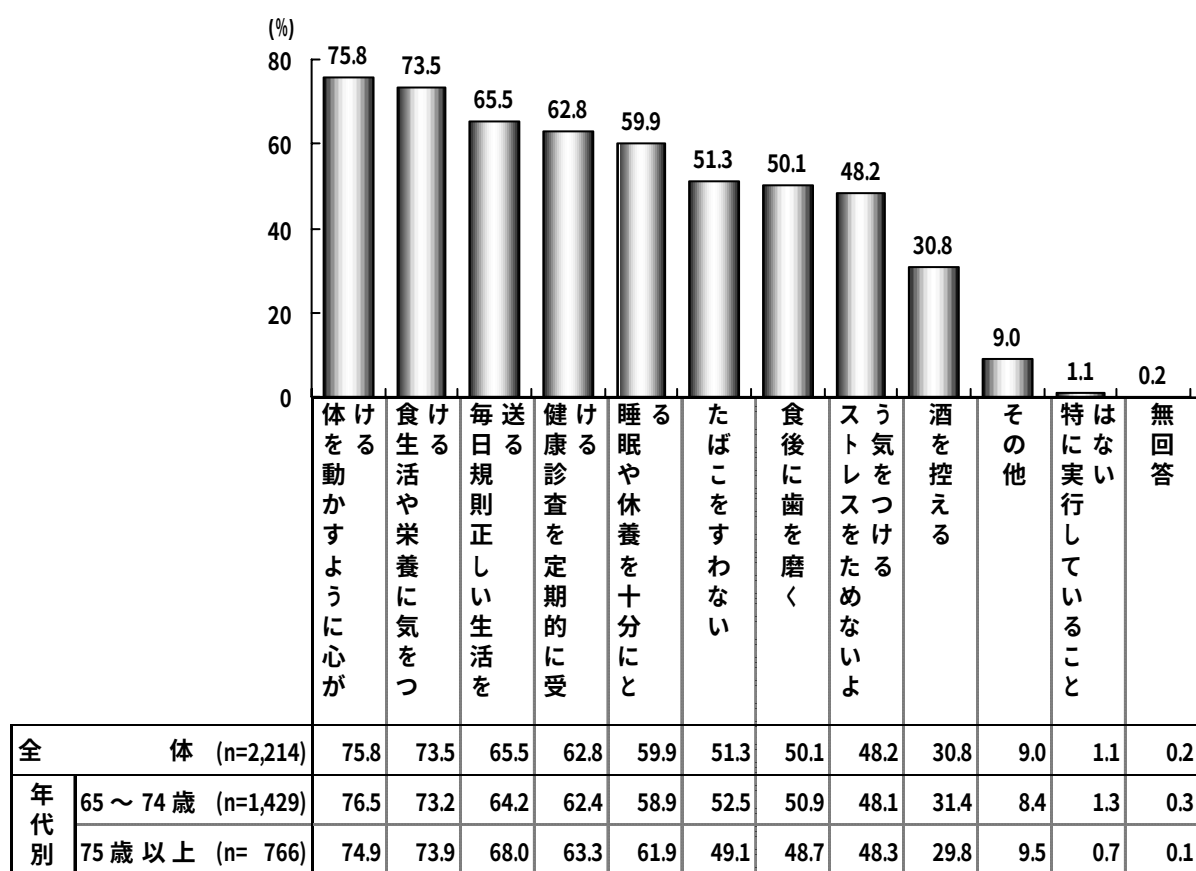


⑨ 実行していること（問8－1）

健康づくりについて「意識している」と回答した場合、実行していることについては、「体を動かすように心がける（75.8%）」、「食生活や栄養に気をつける（73.5%）」、「毎日規則正しい生活を送る（65.5%）」が上位にあげられている。

年代別にみると、大きな違いはなく、全体結果と同様の結果になっている（図表1－3－9）。

図表1－3－9 実行していること
 <意識していると回答した人>（全体／複数回答）

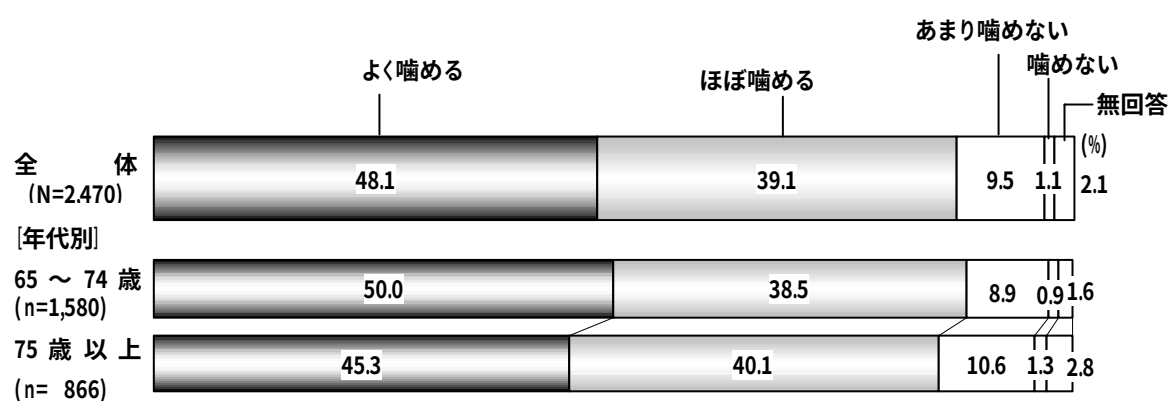


⑩ 咀嚼の程度（問 9）

咀嚼の程度については、「よく噛める（48.1%）」が最も多く、「ほぼ噛める（39.1%）」が続き、これら2つをあわせると87.2%が噛めると回答している。「あまり噛めない（9.5%）」と「噛めない（1.1%）」をあわせた噛めない割合は10.6%となっている。

年代別にみると、年代が上がると噛める割合が少なくなり、噛めない割合が多くなる（図表1－3－10）。

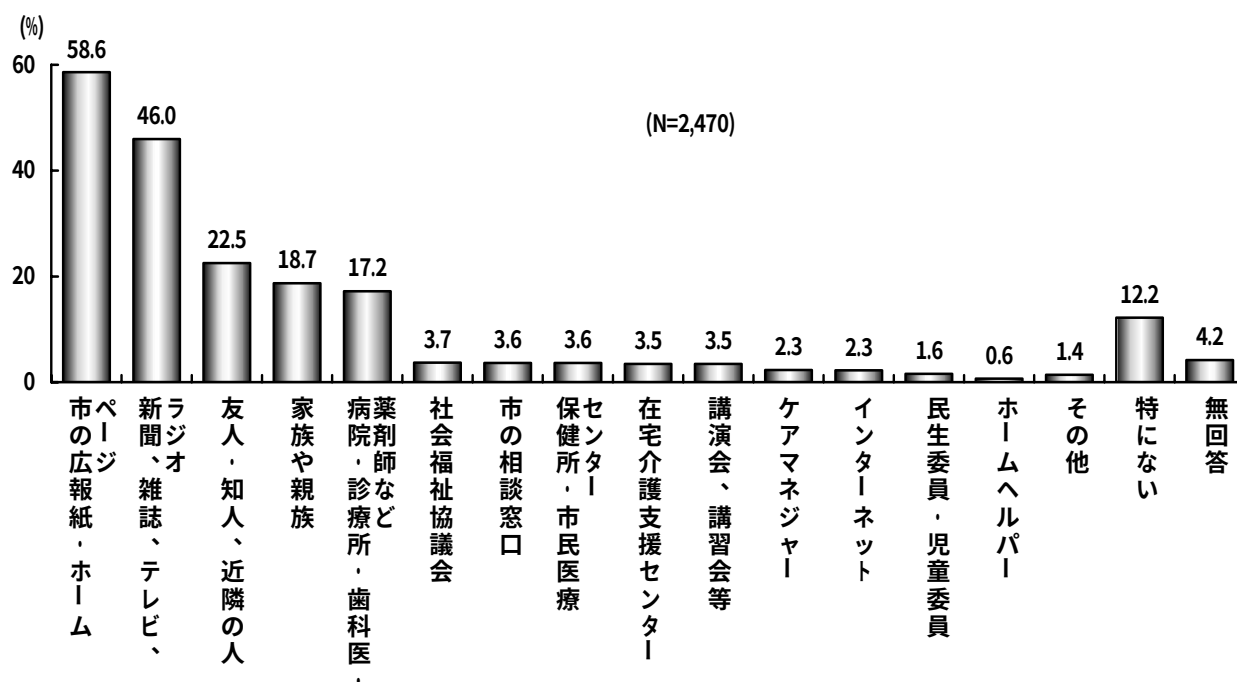
図表1－3－10 咀嚼の程度（全体、年代別）



⑪ 健康・福祉サービスの情報入手方法（問 10）

健康・福祉サービスの情報入手方法については、「市の広報紙・ホームページ（58.6%）」が最も多く、次いで「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ（46.0%）」が続いている。「市の相談窓口（3.6%）」、「在宅介護支援センター（3.5%）」などは1割に満たない（図表1－3－11）。

図表1－3－11 健康・福祉サービスの情報入手方法（全体／複数回答）

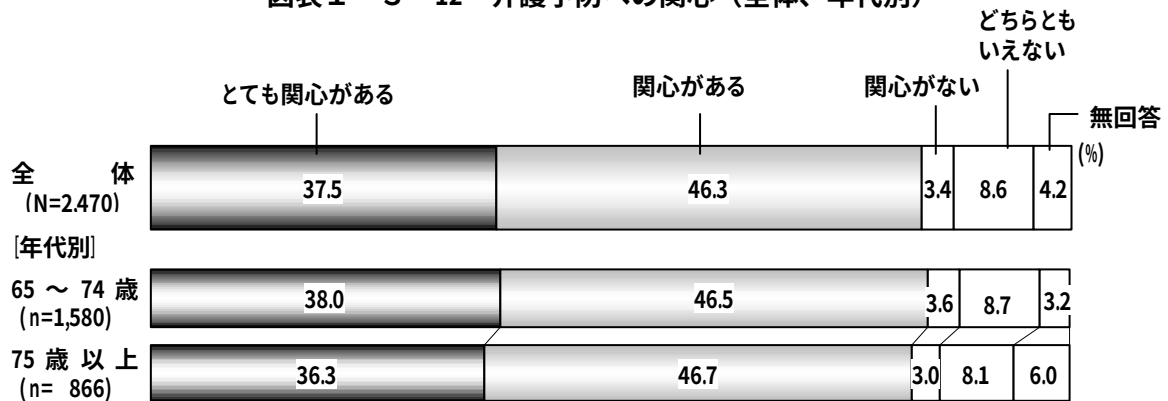


⑫ 介護予防への関心（問 11）

介護予防への関心については、「関心がある（46.3%）」が最も多く、「とても関心がある（37.5%）」が続いている。これら2つをあわせると、83.8%が関心があると回答している。

年代別にみると、年代にかかわらず介護予防への関心は8割以上と高くなっている（図表1-3-12）。

図表1-3-12 介護予防への関心（全体、年代別）

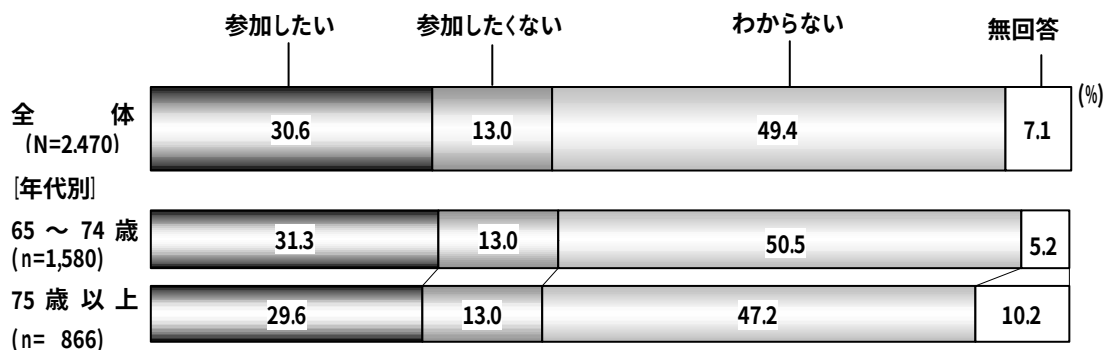


⑬ いきいきプラザでの介護予防プログラムへの参加意向（問 12）

いきいきプラザでの介護予防プログラムへの参加意向については、「わからない（49.4%）」が多く、それ以外では「参加したい（30.6%）」が3割、「参加したくない（13.0%）」が1割となっている。

年代別にみると、「参加したい」が3割前後、「わからない」が5割前後であり大きな違いはみられない（図表1-3-13）。

図表1-3-13 いきいきプラザでの介護予防プログラムへの参加意向（全体、年代別）



「いきいきプラザ」（分梅町1丁目）とは、老化の進行を早期に発見し、健康の維持を応援する高齢者福祉機能と、様々な保育サービスに対応する新たな機能を持つ保育所との併設施設。平成18年4月に開設する予定。

⑭ 「おたっしゃ21」の受診意向（問13）

「おたっしゃ21」の受診意向については、「受診したい」が42.7%、「受診したくない」が14.4%である。「わからない」は35.2%となっている。

年代別にみると、65～74歳、75歳以上ともに「受診したい」が4割以上となっている（図表1-3-14）。

図表1-3-14 「おたっしゃ21」の受診意向（全体、年代別）

	受診したい	受診したくない	わからない	無回答	(%)
全 体 (N=2,470)	42.7	14.4	35.2	7.7	
[年代別]					
65 ～ 74 歳 (n=1,580)	44.0	15.1	35.3	5.7	
75 歳 以上 (n= 866)	40.4	13.4	35.2	11.0	

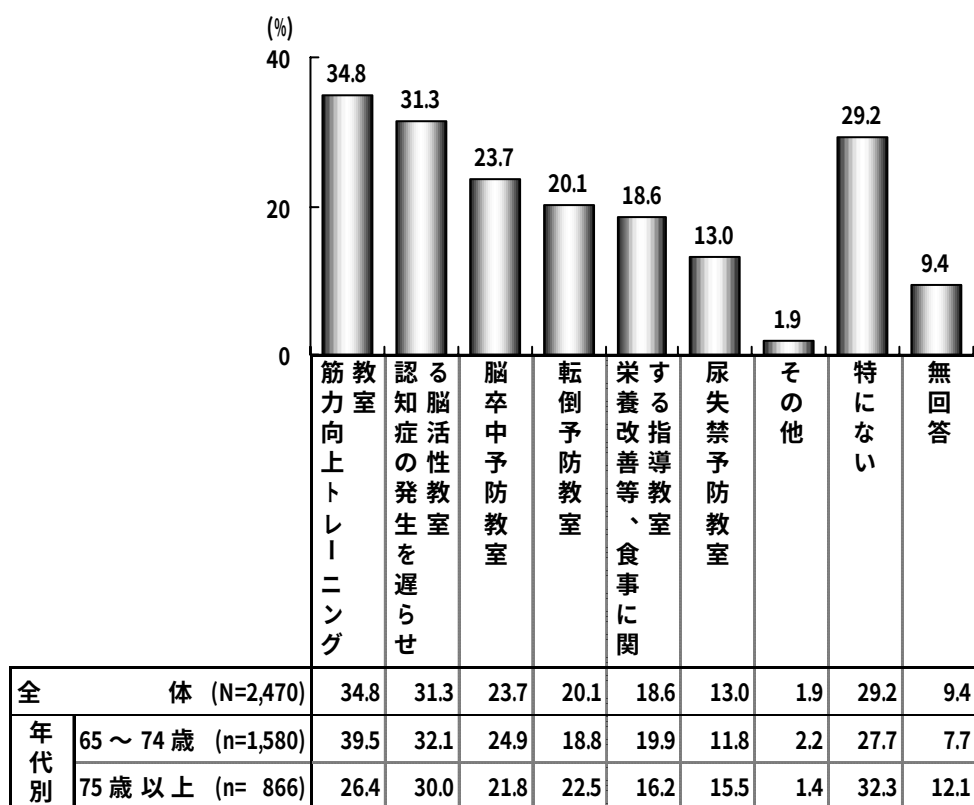
「おたっしゃ21」とは介護予防を効果的に推進するために、老年症候群（生活機能の低下、転倒、失禁、軽度認知症など）の危険を早期に発見し、適切な介護予防プログラムを受けていただくための健診。

⑮ 介護予防策への要望（問 14）

介護予防策への要望については、「筋力向上トレーニング教室（34.8%）」、「認知症の発生を遅らせる脳活性教室（31.3%）」、「脳卒中予防教室（23.7%）」の順に多くなっている。「特にない」は 29.2%である。

年代別にみると、65～74 歳では「筋力向上トレーニング教室（39.5%）」が、75 歳以上では「認知症の発生を遅らせる脳活性教室（30.0%）」が最も多くあげられている（図表 1－3－15）。

図表 1－3－15 介護予防策への要望（全体、年代別／複数回答）



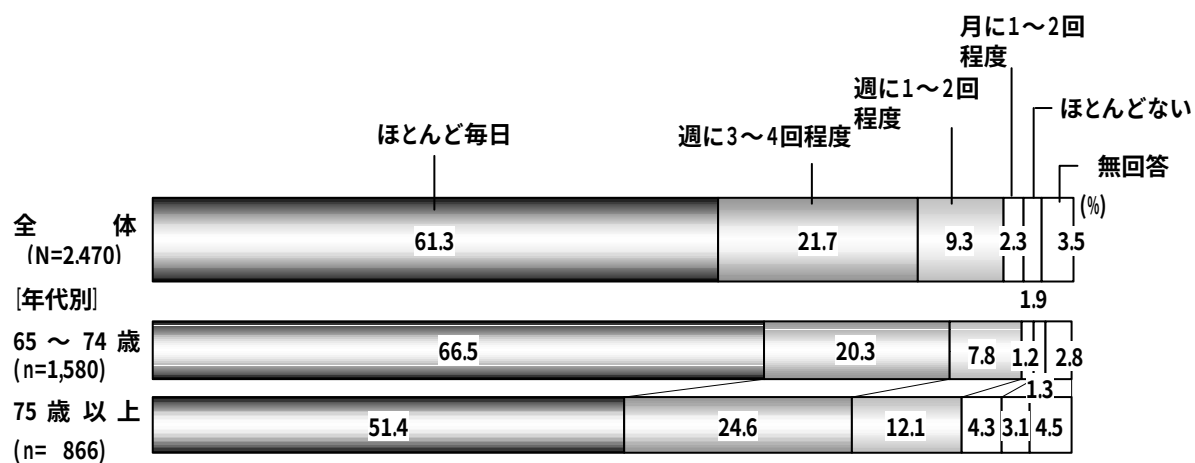
(4) 日常生活・生きがい活動

① 外出の状況 (問 15)

外出の状況については、「ほとんど毎日 (61.3%)」が6割にのぼり最も多く、次いで「週に3～4回程度 (21.7%)」、「週に1～2回程度 (9.3%)」が続いている。これら3つをあわせると、全体の92.3%になる

年代別にみると、75歳以上では「ほとんど毎日 (51.4%)」が約半数で、全体と比べて外出頻度が少なくなっている (図表1-4-1)。

図表1-4-1 外出の状況 (全体、年代別)

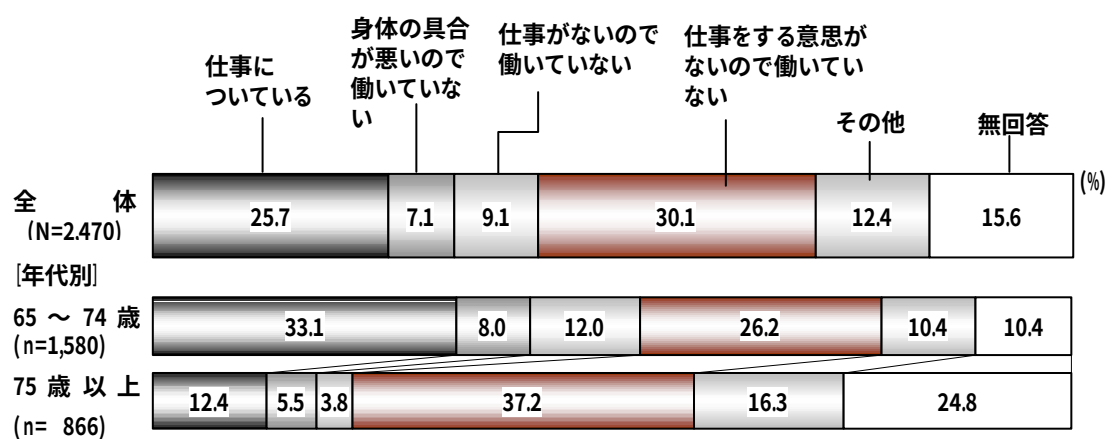


② 就労状況（問 16）

就労状況については、「仕事をする意思がないので働いていない（30.1%）」が最も多く、「仕事についている（25.7%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳では「仕事についている（33.1%）」が、75 歳以上では「仕事をする意思がないので働いていない（37.2%）」が最も多くなっている（図表 1－4－2）。

図表 1－4－2 就労状況（全体、年代別）

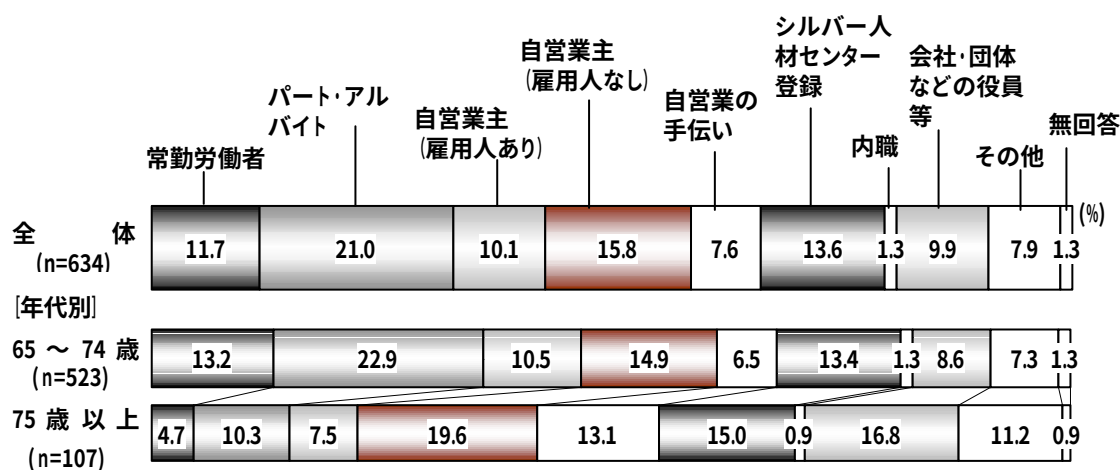


③ 就労形態（問 16－1）

「仕事についている」と回答した場合の就労形態については、「パート・アルバイト（21.0%）」、「自営業主（雇用人なし）（15.8%）」、「シルバー人材センター登録（13.6%）」の順に多くなっている。

年代別にみると、65～74 歳では「パート・アルバイト（22.9%）」が最も多く、全体と同様の傾向にある。75 歳以上では「自営業主（雇用人なし）（19.6%）」が最も多く、次いで「会社・団体などの役員等（16.8%）」となっている（図表 1－4－3）。

図表 1－4－3 就労形態
＜仕事についていると回答した人＞（全体、年代別）



④ 働きたい場所（問 16－2）

「仕事をしたいが、仕事がないので働いていない」と回答した場合、働きたい場所については、「シルバー人材センター（34.2%）」が最も多く、次いで「地域の企業（29.8%）」となっている。

年代別にみると、65～74 歳では「シルバー人材センター（33.9%）」に「地域の企業（33.3%）」が僅差で続いているが、75 歳以上では「シルバー人材センター（39.4%）」、「ボランティア団体・NPO など（24.2%）」の順になっている（図表 1－4－4）。

図表 1－4－4 働きたい場所
＜仕事がないので働いていないと回答した人＞（全体、年代別）

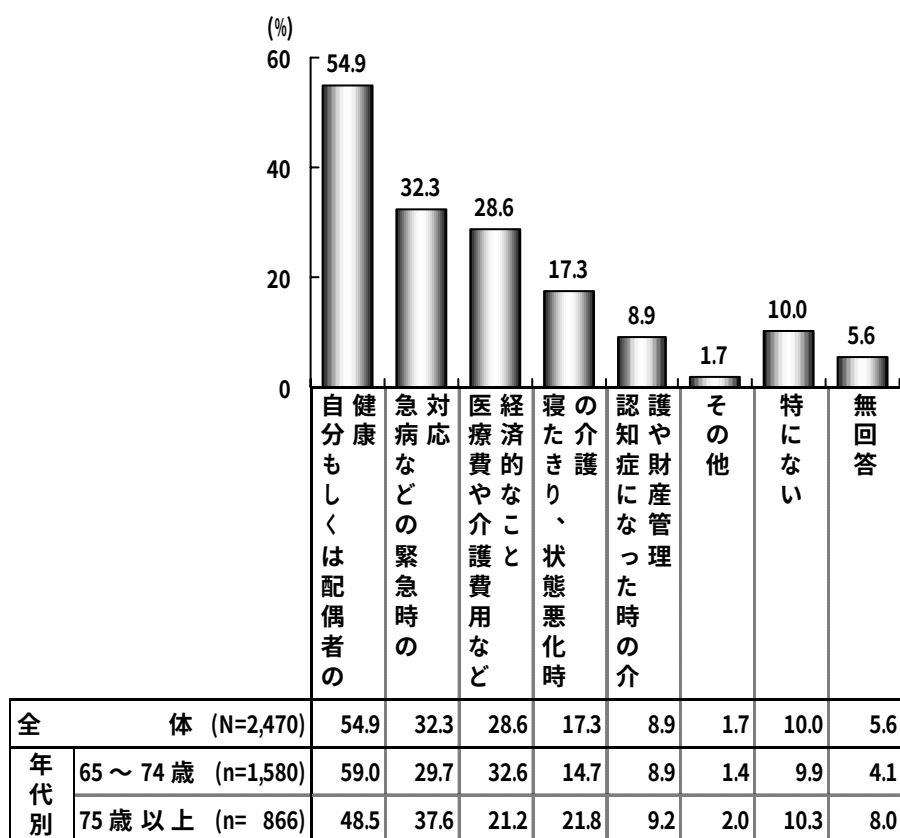
	地域の企業	シルバー人材センター	ボランティア団体・NPO など	その他	無回答	(%)
全 体 (n=225)	29.8	34.2	19.1	8.0	8.9	
[年代別]						
65 ～ 74 歳 (n=189)	33.3	33.9	18.0	6.9	7.9	
75 歳 以上 (n=33)	9.1	39.4	24.2	15.2	12.1	

⑤ 生活の悩みや不安（問 17）

生活の悩みや不安については、「自分もしくは配偶者の健康（54.9%）」が最も多く、次いで「急病などの緊急時の対応（32.3%）」、「医療費や介護費用など経済的なこと（28.6%）」となっている。

年代別に上位3つをみると、65～74歳では「自分もしくは配偶者の健康（59.0%）」、「医療費や介護費用など経済的なこと（32.6%）」、「急病などの緊急時の対応（29.7%）」となっている。75歳以上では「自分もしくは配偶者の健康（48.5%）」、「急病などの緊急時の対応（37.6%）」、「寝たきり、状態悪化時の介護（21.8%）」の順で、年代があがると緊急時や寝たきりの不安が多くあげられている（図表1－4－5）。

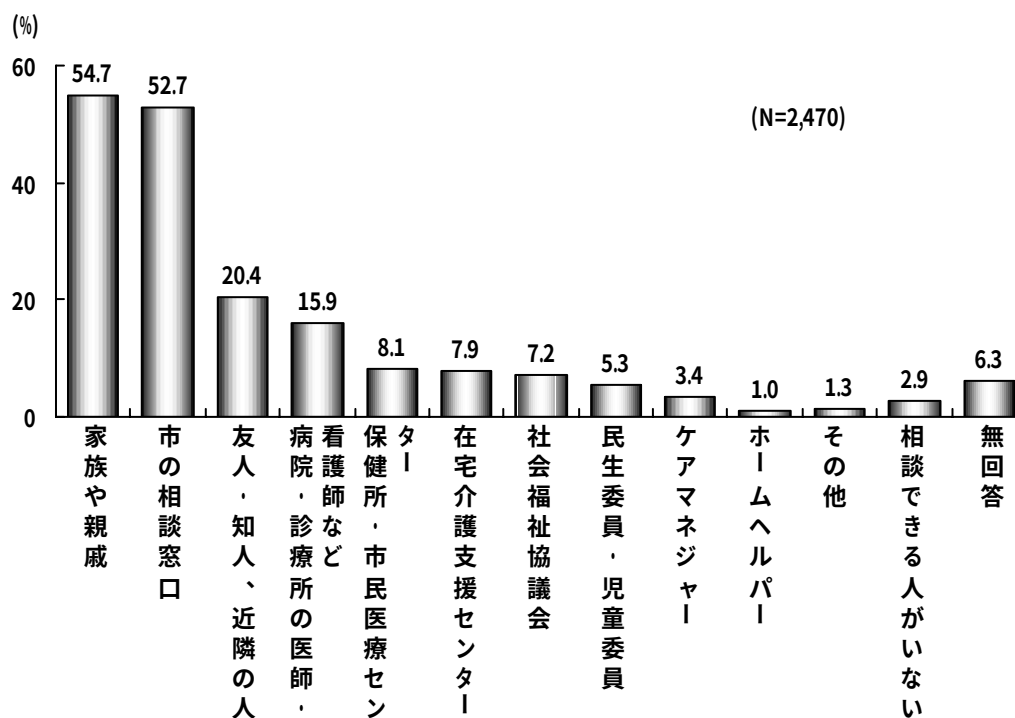
図表1－4－5 生活の悩みや不安（全体、年代別／複数回答）



⑥ 悩みの相談先（問 18）

悩みの相談先については、「家族や親族（54.7%）」と「市の相談窓口（52.7%）」が5割台で多く、「友人・知人、近隣の人（20.4%）」が続いている（図表1－4－6）。

図表1－4－6 悩みの相談先（全体／複数回答）



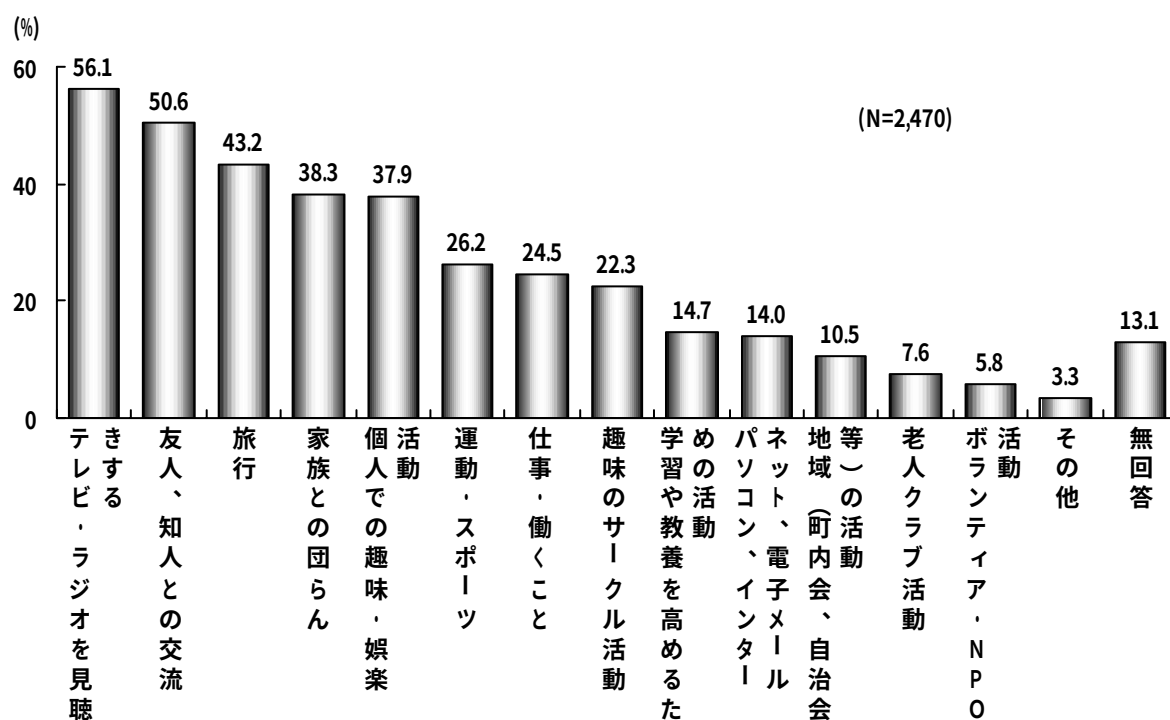
⑦ 生きがい活動の現状と意向（問 19）

生きがい活動の現状と意向についてたずねた。

（ア）現在行っていること

「テレビ・ラジオを見聴きする（56.1%）」、「友人、知人との交流（50.6%）」、「旅行（43.2%）」の順に多くなっている（図表1－4－7－①）。

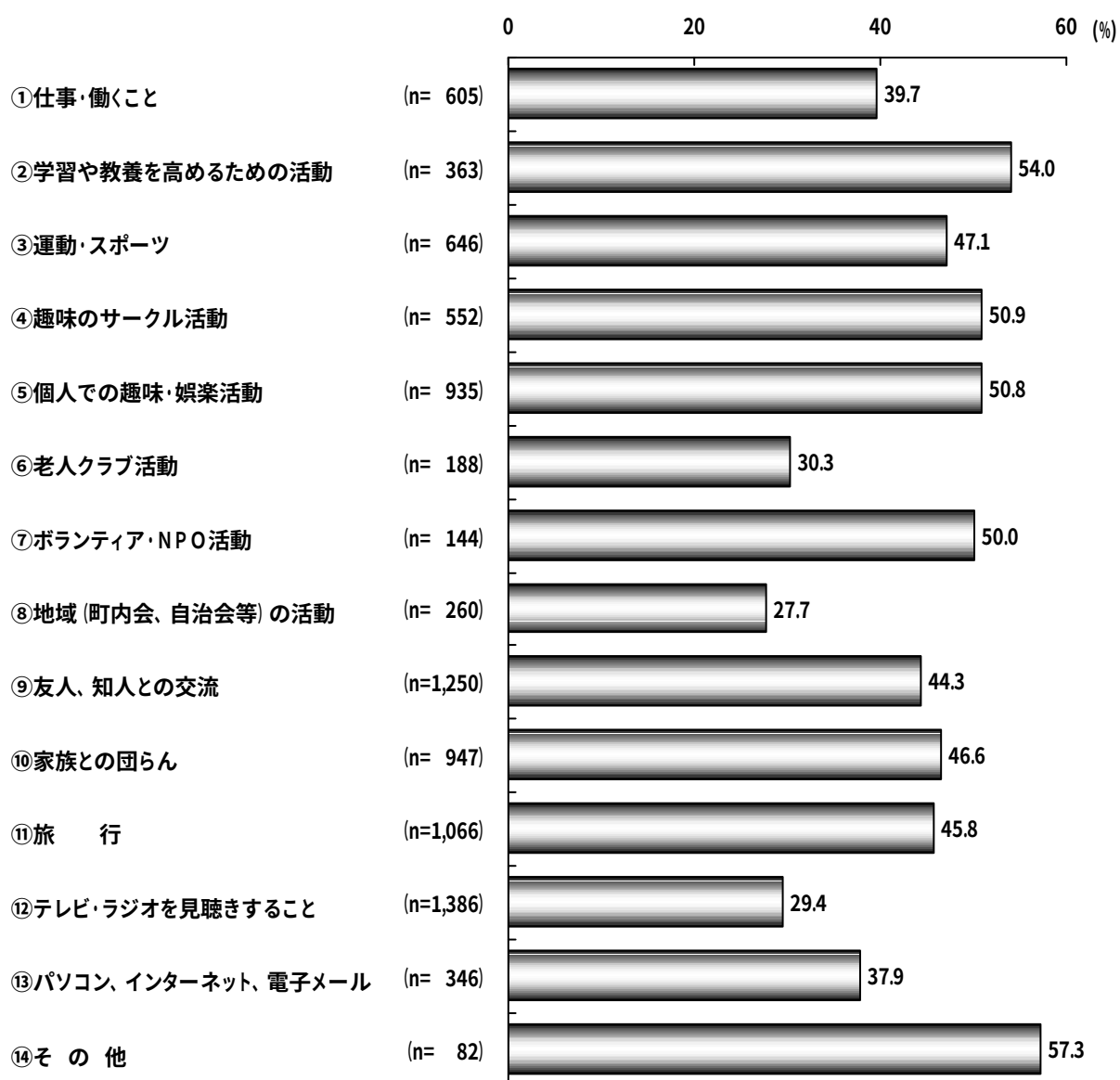
図表1－4－7－① 現在行っていること（全体／複数回答）



(イ) 現在生きがいを感じること

現在生きがいを感じることは、「学習や教養を高めるための活動（54.0%）」、「趣味のサークル活動（50.9%）」、「個人での趣味・娯楽活動（50.8%）」、「ボランティア・NPO（50.0%）」の項目では、活動者の半数以上が生きがいを感じている。また、「その他」が57.3%にのぼり、具体的には「家庭菜園、畑・農園、ガーデニング」、「読書」、「絵画制作」などが多くあげられている（図表1-4-7-②）。

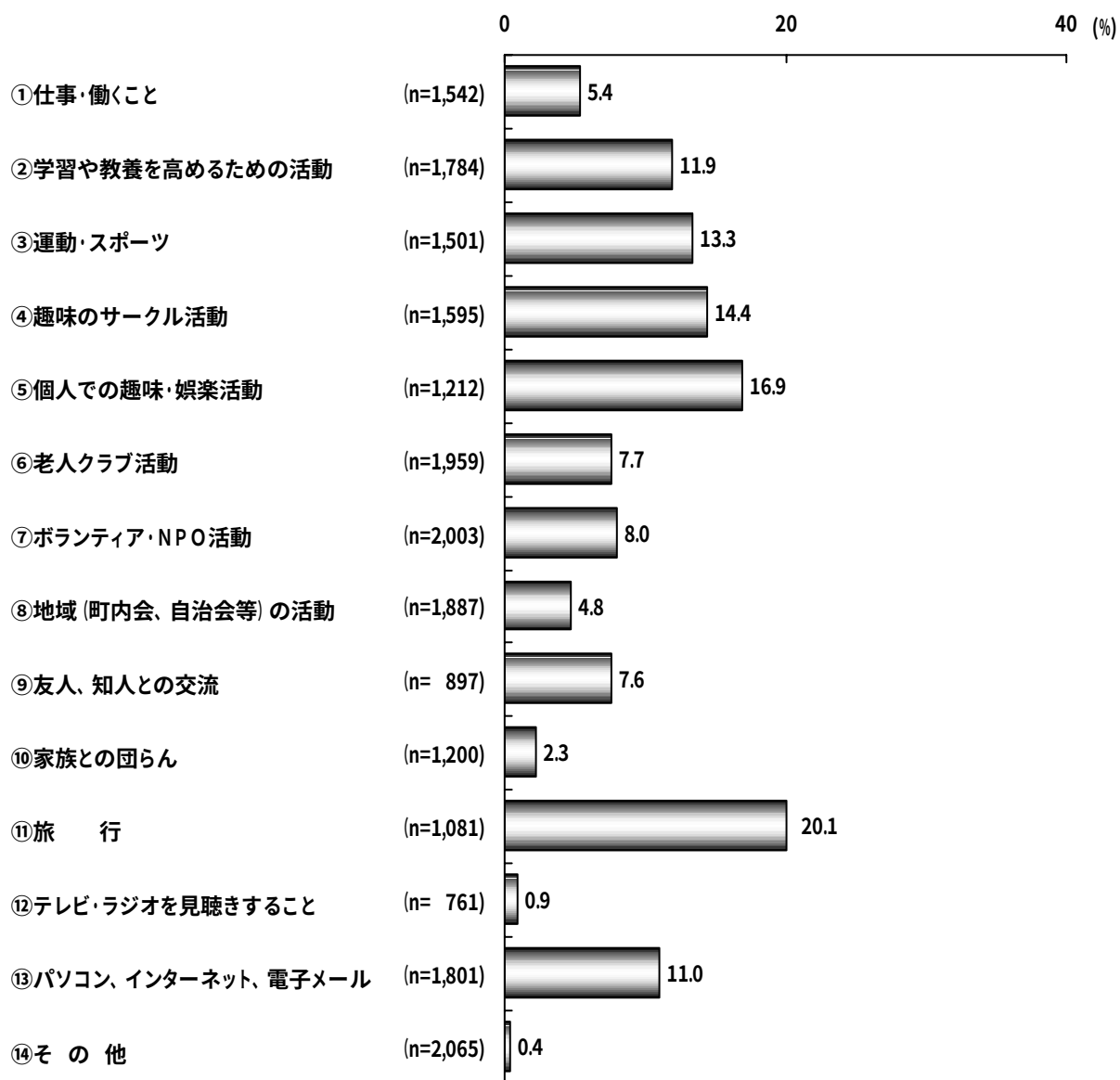
図表1-4-7-② 現在生きがいを感じること
 <現在活動を行っている人>（全体／複数回答）



(ウ) 現在は行っていないが、今後やりたいこと

現在は行っていないが、今後やりたいことについては、「旅行(20.1%)」が最も多く、「個人での趣味・娯楽活動(16.9%)」、「趣味のサークル活動(14.4%)」が続いている(図表1-4-7-③)。

図表1-4-7-③ 現在は行っていないが、今後やりたいこと
 <現在活動を行っていない人> (全体/複数回答)



(5) 保健福祉サービス

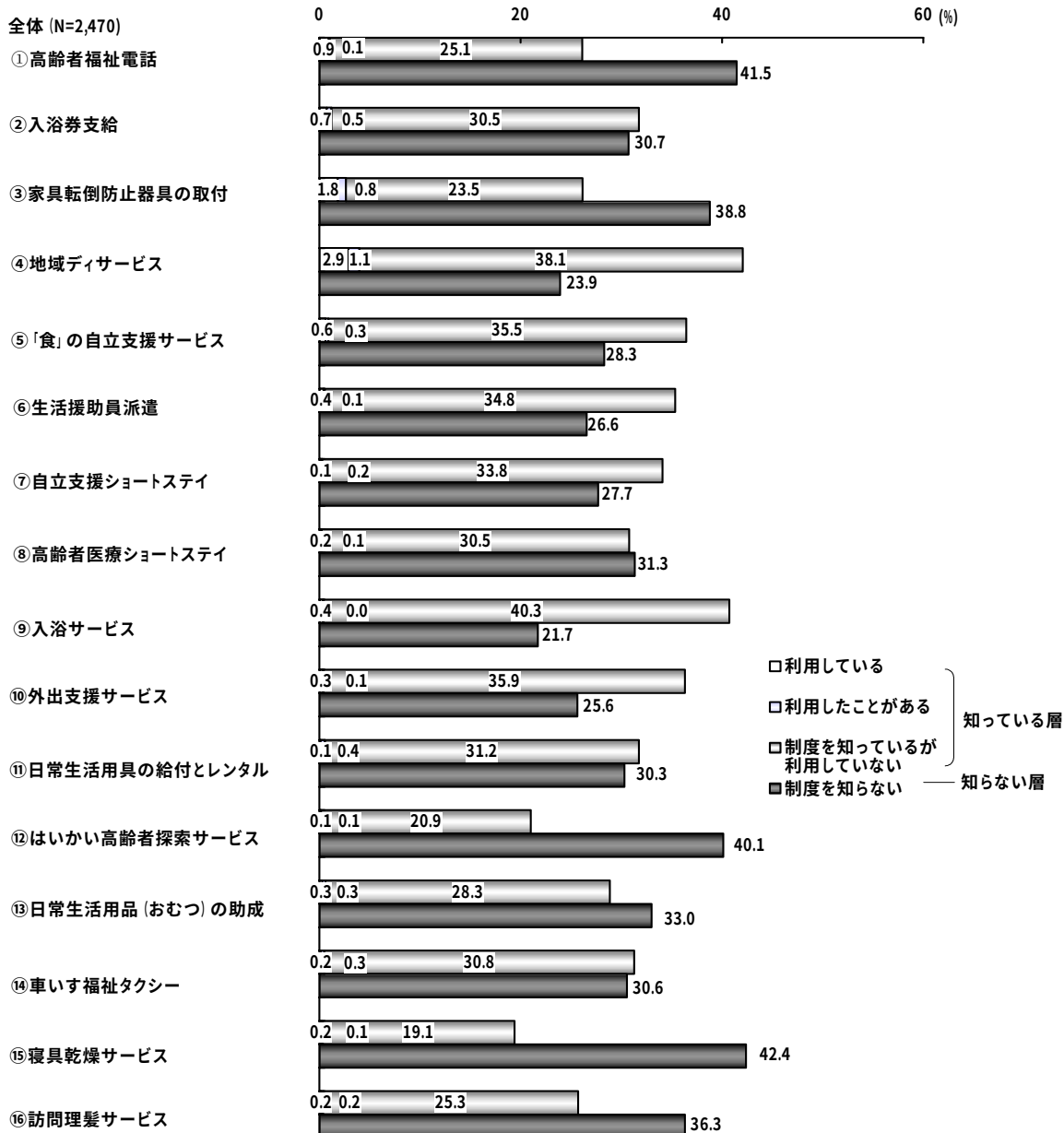
① 高齢者保健福祉サービスの利用状況・利用意向（問 20）

高齢者保健福祉サービスの利用状況をたずねた。

利用状況をみると、『地域デイサービス（2.9%）』、『家具転倒防止器具の取付（1.8%）』などが多いがいずれも5%未満と利用率は低い。

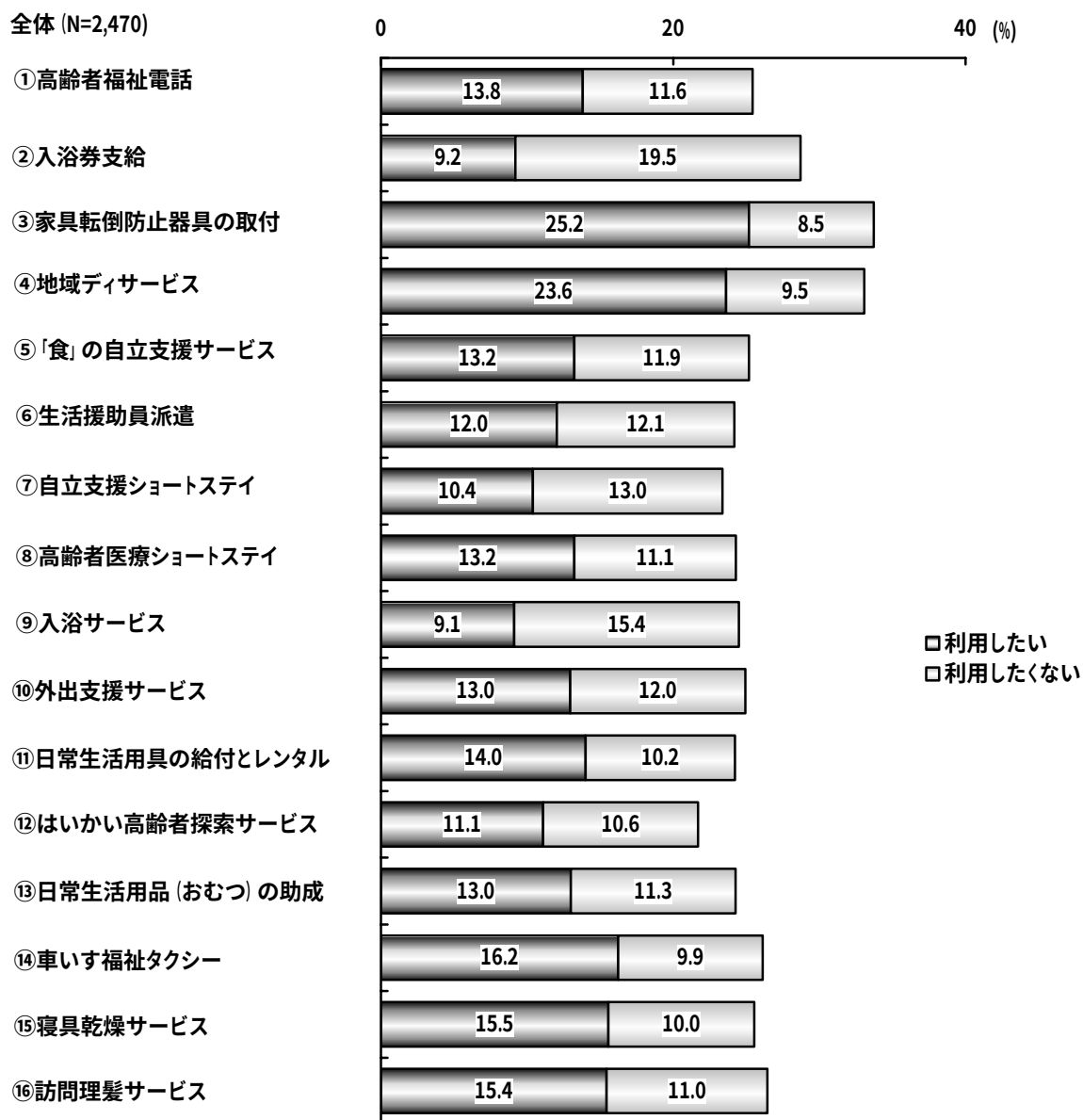
認知状況をみると、認知度が高いサービスは（「利用している」、「利用したことがある」、「制度を知っているが利用していない」の計）、『地域デイサービス』、『入浴サービス』、『「食」の自立支援サービス』、『外出支援サービス』などである。認知度が低いサービス（「制度を知らない」）として多くあげられているのは、『寝具乾燥サービス（42.4%）』、『高齢者福祉電話（41.5%）』、『はいかい高齢者探索サービス（40.1%）』などとなっている（図表1-5-1-①）。

図表1-5-1-① 高齢者保健福祉サービスの利用状況（全体）



利用意向をみると、「利用したい」サービスは、『家具転倒防止器具の取付（25.2%）』、『地域デイサービス（23.6%）』が多くなっている。「利用したくない」サービスでは、『入浴券支給（19.5%）』、『入浴サービス（15.4%）』などがあげられている（図表1－5－1－②）。

図表1－5－1－② 高齢者保健福祉サービスの利用意向（全体）

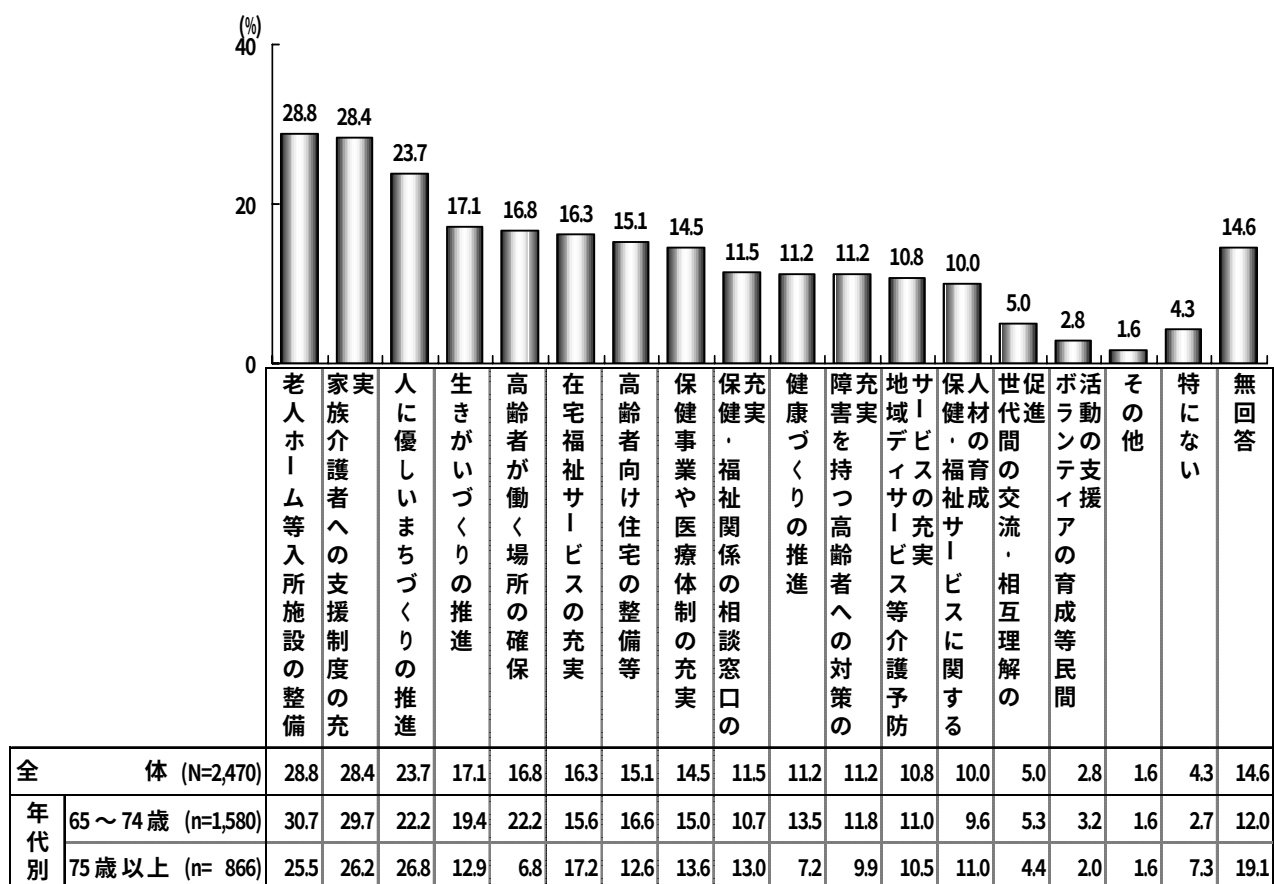


② 市が優先的に取組むべき保健福祉サービス（問 21）

市が優先的に取組むべき保健福祉サービスについては、「老人ホーム等入所施設の整備（28.8%）」が最も多く、次いで「家族介護者への支援制度の充実（28.4%）」、「人に優しいまちづくりの推進（23.7%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳では全体と上位 3 項目が同様で、同率 3 位に「高齢者が働く場所の確保（22.2%）」が入っている。75 歳以上では「人に優しいまちづくりの推進（26.8%）」が最も多くあげられている（図表 1－5－2）。

図表 1－5－2 市が優先的に取組むべき保健福祉サービス
（全体、年代別／複数回答）

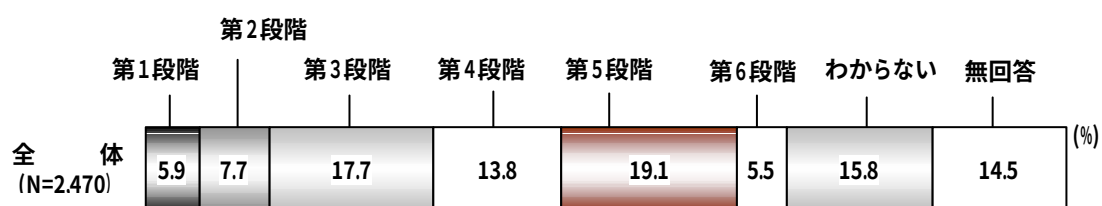


(6) 介護保険サービス

① 保険料段階 (問 22)

保険料段階については、「第5段階 (19.1%)」が最も多く、次いで「第3段階」(17.7%)、「わからない (15.8%)」となっている (図表1-6-1)。

図表1-6-1 保険料段階 (全体)



② 介護保険サービスと保険料についての考え方（問 23）

介護保険サービスと保険料についての考え方については、「どちらともいえない(27.6%)」が最も多く、次いで「今くらいが妥当(24.0%)」、「サービスを抑えても保険料が低い方がよい(18.2%)」となっている。

保険料段階別にみると、第2段階、第5段階、第6段階では「今くらいが妥当」が最も多く、その他の段階では「どちらともいえない」が最も多くなっている。サービスと保険料の関係をみると、第1段階から第4段階までは「サービスを抑えても保険料が低い方がよい」が「保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい」を上回り、第5段階以上では「保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい」が「サービスを抑えても保険料が低い方がよい」を上回っている（図表1－6－2）。

図表1－6－2 保険料段階（全体、保険料段階別）

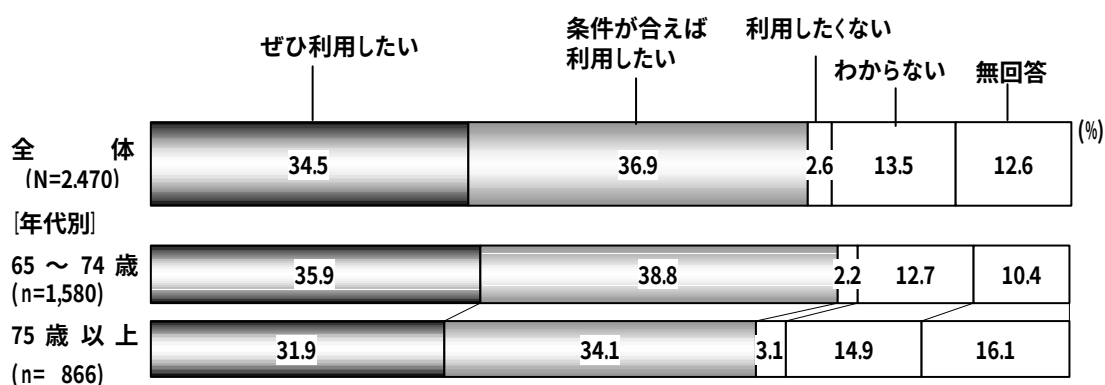
	保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい	今くらいが妥当	サービスを抑えても保険料が低い方がよい	どちらともいえない	無回答
全 体 (N=2,470)	14.4	24.0	18.2	27.6	15.8
[保険料段階別]					
第 1 段 階 (n=145)	15.2	24.8	16.6	29.0	14.5
第 2 段 階 (n=189)	9.5	31.2	19.0	28.6	11.6
第 3 段 階 (n=437)	13.3	26.8	16.7	30.4	12.8
第 4 段 階 (n=342)	16.1	26.0	21.1	26.6	10.2
第 5 段 階 (n=472)	20.8	27.1	17.6	25.2	9.3
第 6 段 階 (n=135)	18.5	28.9	16.3	25.2	11.1

③ 介護保険サービスの利用意向（問 24）

介護保険サービスの利用意向については、「条件が合えば利用したい（36.9%）」、「ぜひ利用したい（34.5%）」の順に多く、これら2つをあわせた71.4%に利用意向がある。

年代別にみると、利用意向のある割合は65～74歳で74.7%、75歳以上で66.0%と年代が低いほど利用意向が高くなっている（図表1－6－3）。

図表1－6－3 介護保険サービスの利用意向（全体、年代別）

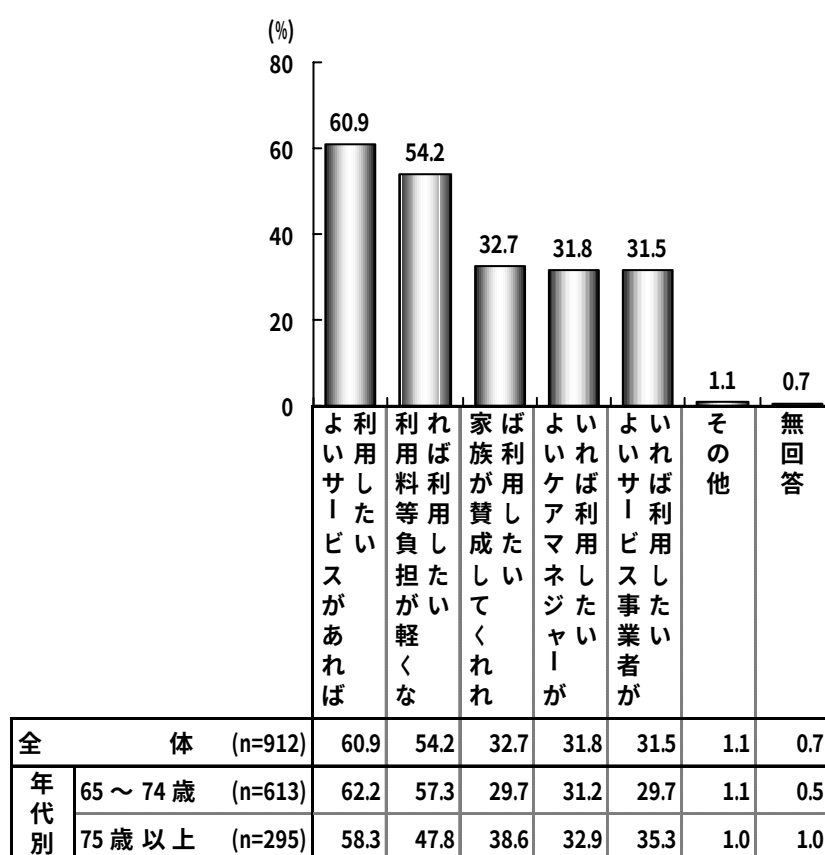


④ 具体的条件（問 24－1）

「条件が合えば利用したい」と回答した場合、具体的条件については、「よいサービスがあれば利用したい（60.9%）」が最も多く、次いで「利用料等負担が軽くなれば利用したい（54.2%）」、「家族が賛成してくれれば利用したい（32.7%）」となっている。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに「よいサービスがあれば利用したい」が最も多くなっている（図表 1－6－4）。

図表 1－6－4 具体的条件
 ＜条件が合えば利用したいと回答した人＞（全体、年代別／複数回答）

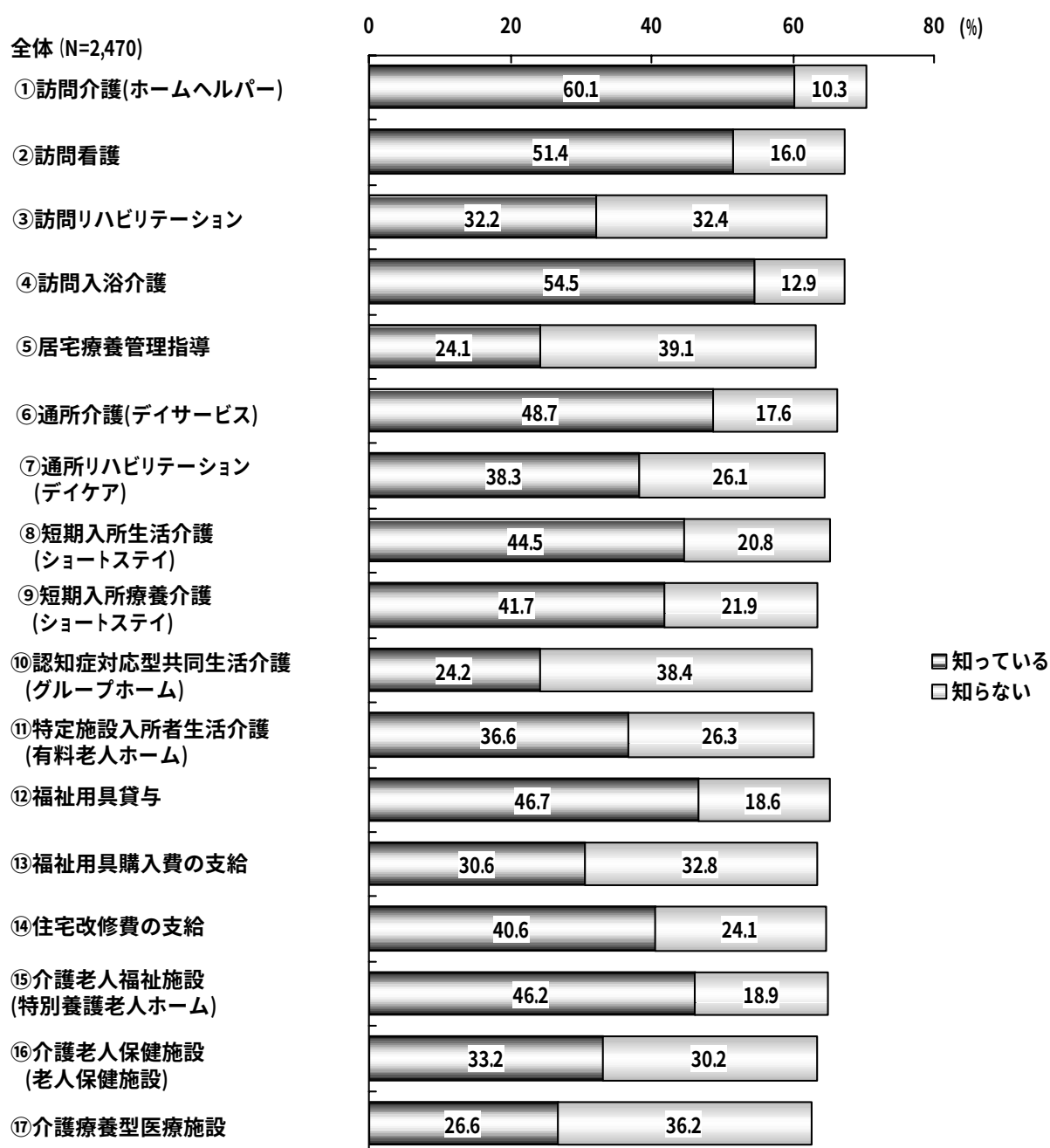


⑤ 介護保険サービスの周知状況・利用意向（問 25）

介護保険サービスの周知状況をたずねた。

認知度が高いサービスは、『訪問介護（ホームヘルパー）（60.1%）』、『訪問入浴介護（54.5%）』、『訪問看護（51.4%）』などとなっている。一方、認知度が低いサービスは、『居宅療養管理指導（39.1%）』、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（38.4%）』、『介護療養型医療施設（36.2%）』などがあげられている（図表1－6－5－①）。

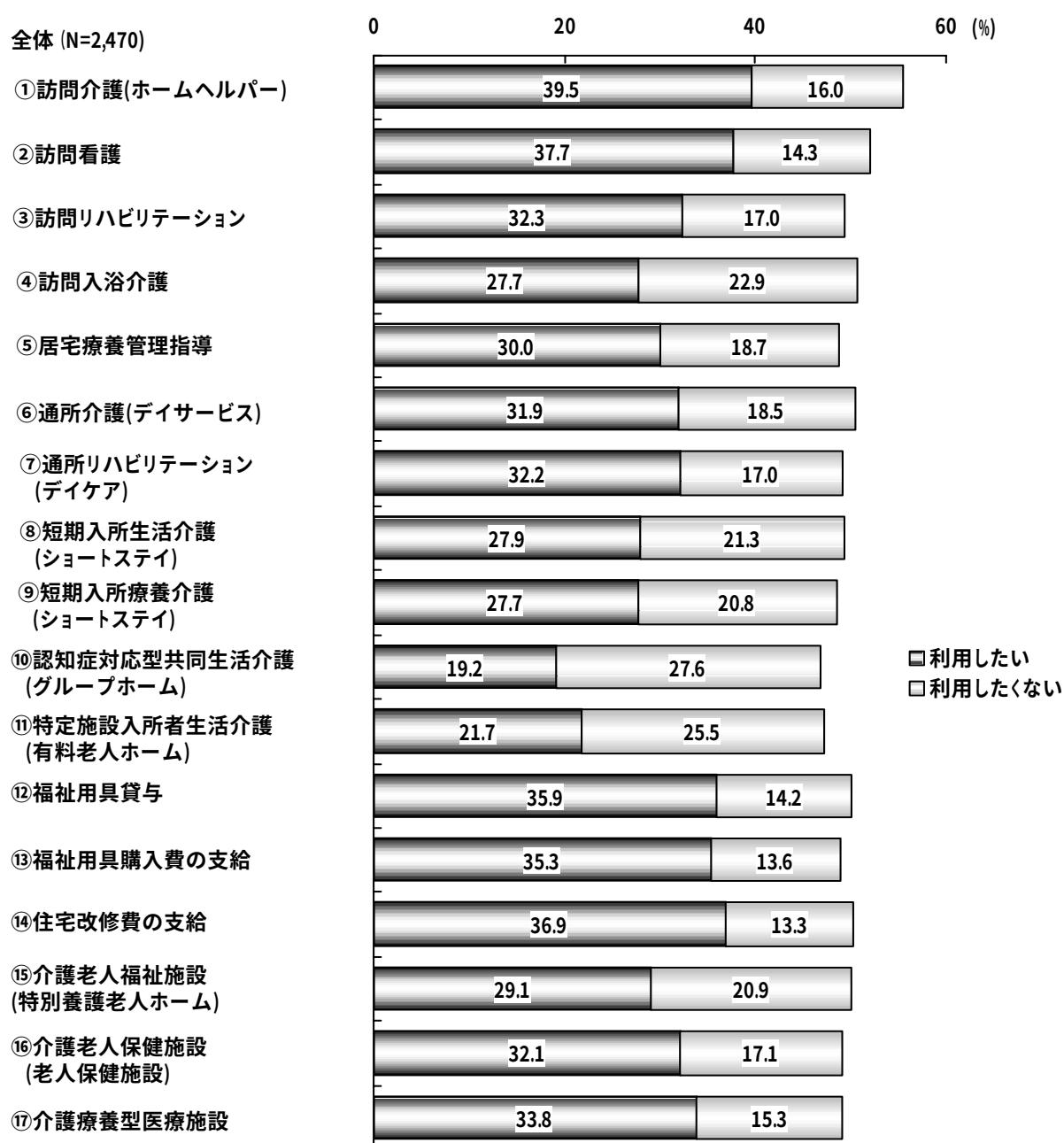
図表1－6－5－① 介護保険サービスの周知状況（全体）



介護保険サービスの利用意向をたずねた。

利用意向が高いサービスは、『訪問介護（ホームヘルパー）（39.5%）』、『訪問看護（37.7%）』、『住宅改修費の支給（36.9%）』などとなっている。一方、利用意向が低いサービスは、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（27.6%）』、『特定施設入所者生活介護（有料老人ホーム）（25.5%）』、『訪問入浴介護（22.9%）』などがあげられている（図表1-6-5-②）。

図表1-6-5-② 介護保険サービスの利用意向（全体）

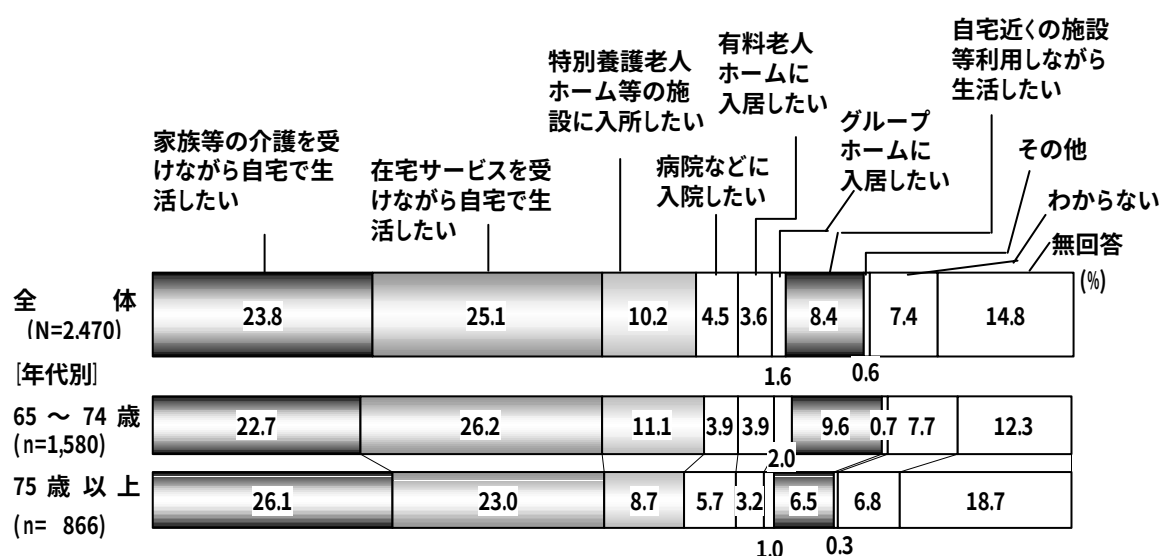


⑥ 介護を受けたい場所（問 26）

介護を受けたい場所については、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい(25.1%)」が最も多く、次いで「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい(23.8%)」が続き、これら2つをあわせた48.9%が《在宅希望》である。

年代別にみると、65～74歳では全体と同様の傾向となっている。75歳以上では「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい(26.1%)」が「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい(23.0%)」を上回っている(図表1-6-6)。

図表1-6-6 介護を受けたい場所（全体、年代別）

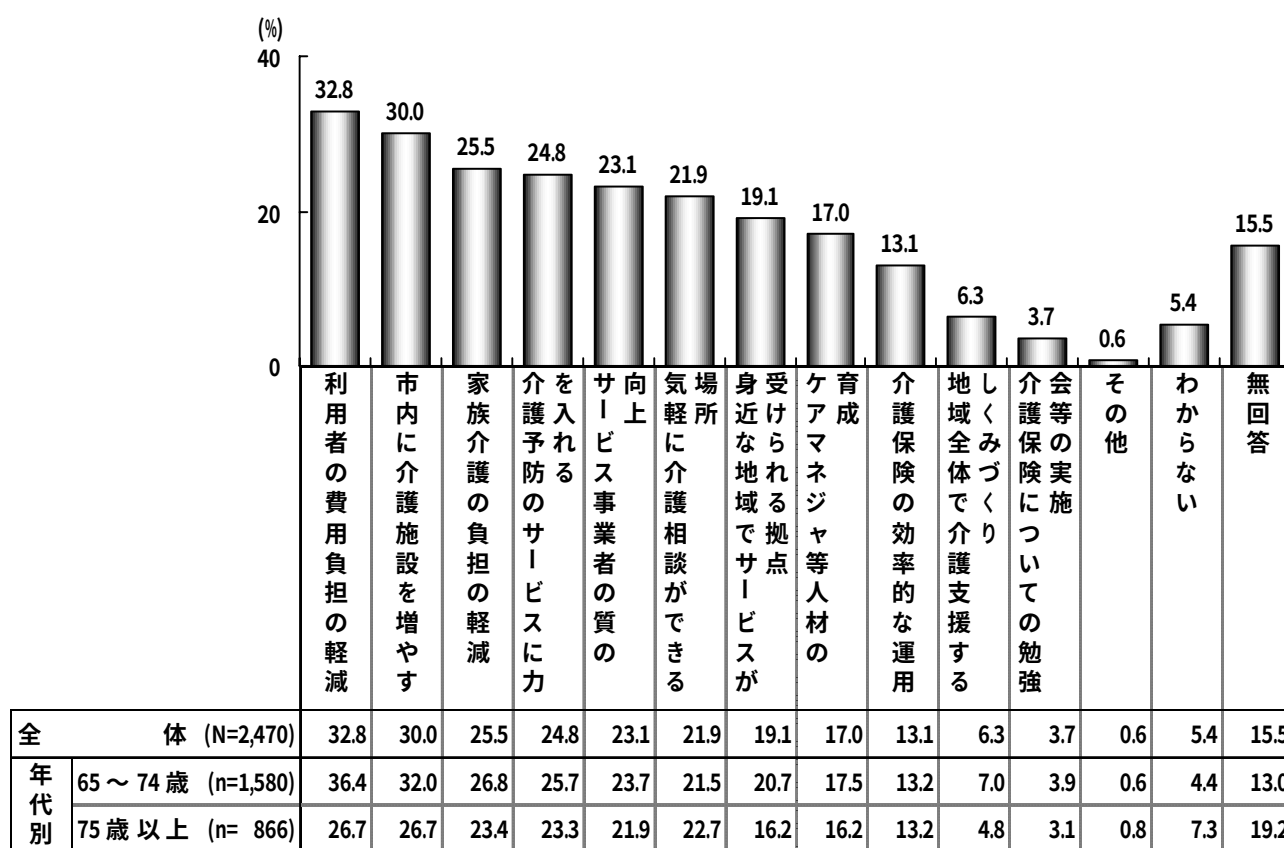


⑦ 介護保険制度の改善策（問 27）

介護保険制度の改善策については、「利用者の費用負担の軽減（32.8%）」が最も多く、次いで「市内に介護施設を増やす（30.0%）」、「家族介護の負担の軽減（25.5%）」となっている。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに上位にあげられる項目は同じ傾向となっている（図表 1－6－7）。

図表 1－6－7 介護保険制度の改善策（全体、年代別／複数回答）



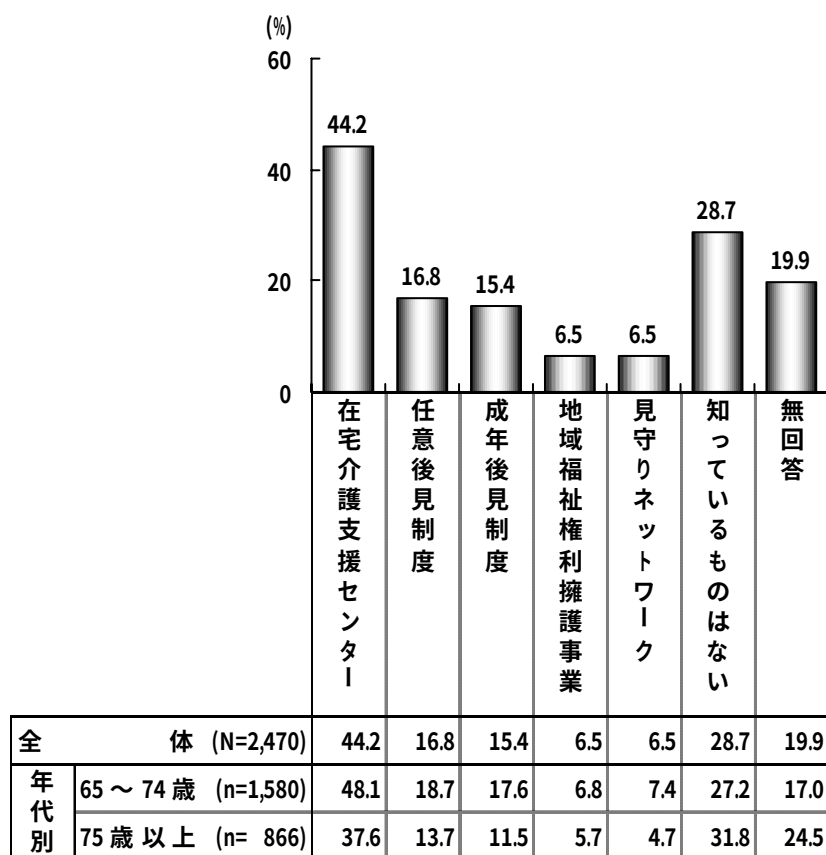
(7) 高齢者の権利擁護

① 権利擁護制度の周知状況（問 28）

権利擁護の制度やしきみなどの周知状況については、「在宅介護支援センター（44.2%）」が最も多く、次いで割合は低くなるが「任意後見制度（16.8%）」、「成年後見制度（15.4%）」が続いている。「知っているものはない」は28.7%にのぼる。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに「在宅介護支援センター」の認知度が最も高い。いずれの項目でも 65～74 歳では全体を上回り、75 歳以上は下回ることから、年代が上がると認知度が低くなる（図表 1－7－1）。

図表 1－7－1 権利擁護制度の周知状況（全体、年代別／複数回答）

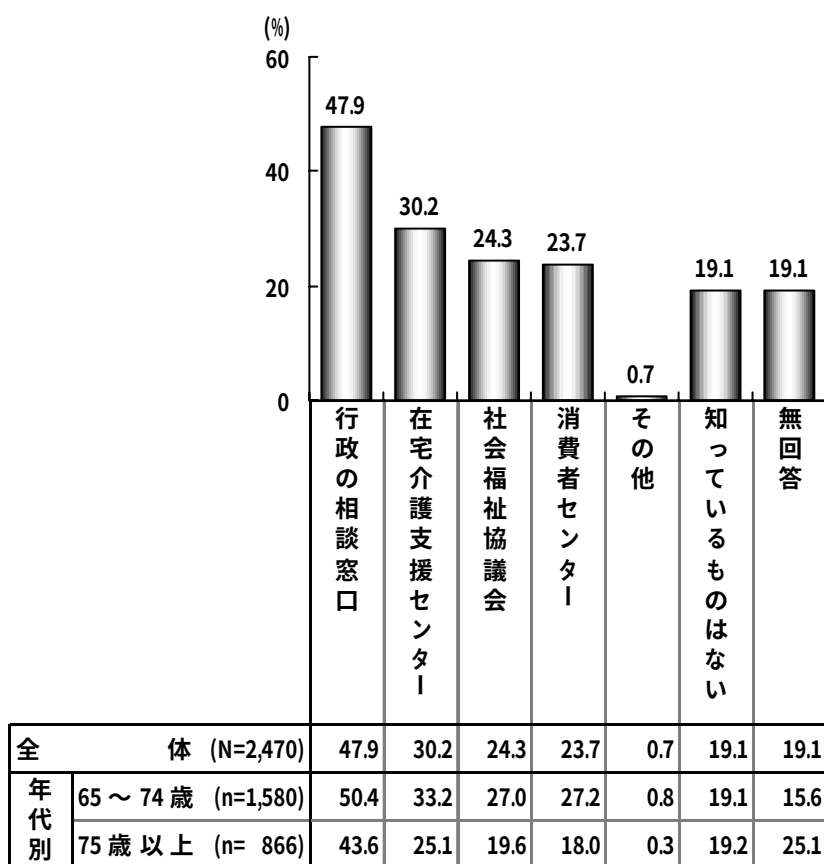


② 相談窓口の周知状況（問 29）

相談窓口の周知状況については、「行政の相談窓口（47.9%）」が最も多く、「在宅介護支援センター（30.2%）」、「社会福祉協議会（24.3%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに全体と同様の傾向である。いずれの項目でも 65～74 歳では全体を上回り、75 歳以上は下回ることから、年代が上がると認知度が低くなる（図表 1－7－2）。

図表 1－7－2 相談窓口の周知状況（全体、年代別／複数回答）

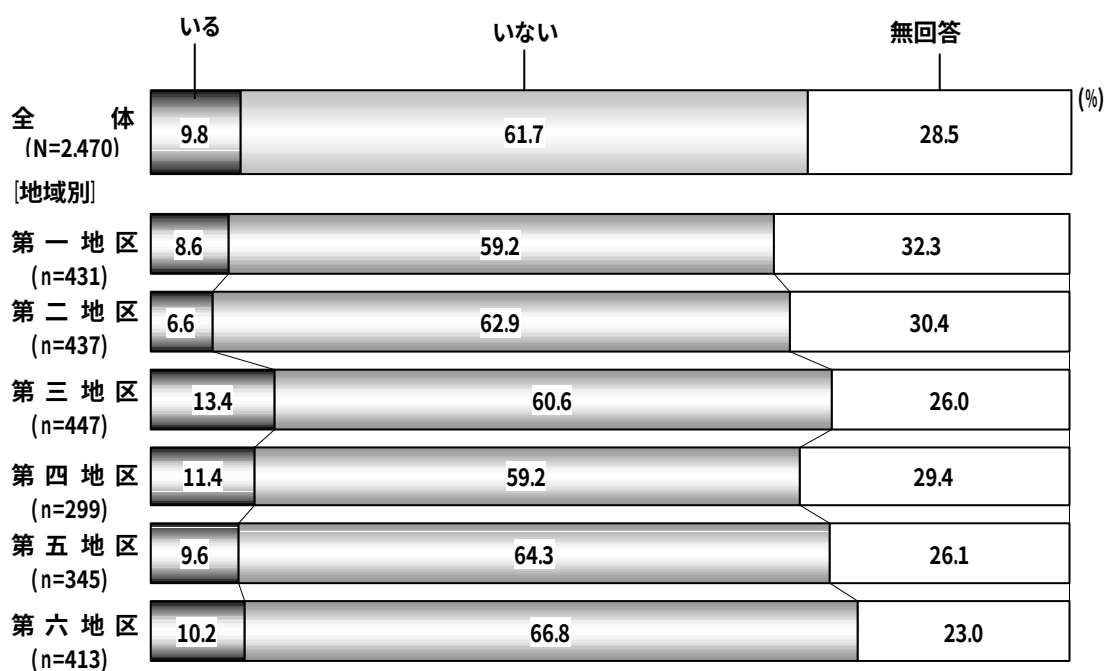


③ 周囲で困っている人の有無（問 30）

周囲で困っている人がいるかどうかをたずねたところ、「いる」が 9.8%、「いない」が 61.7%で、「いない」が圧倒的に多い。

地域別にみると、第三地域、第四地域では全体と比べて「いる」割合が高くなっている（図表 1－7－3）。

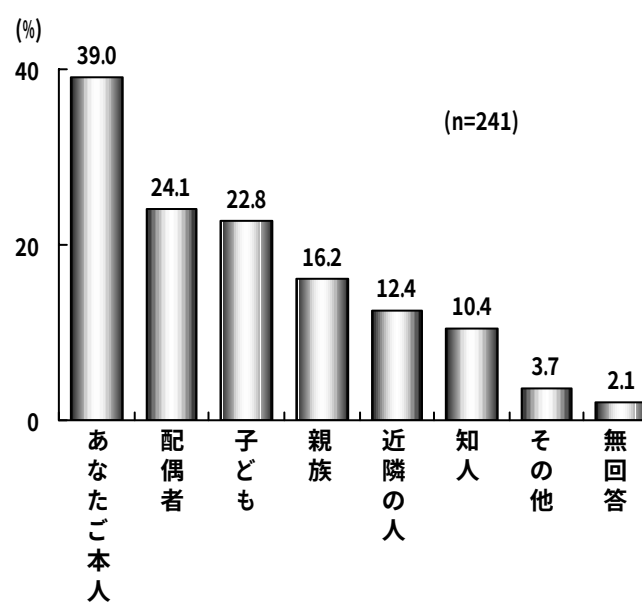
図表 1－7－3 周囲で困っている人の有無（全体、地域別／複数回答）



④ 困っている人（問 30－1）

困っている人が「いる」場合、具体的に困っている人は、「あなたご本人（39.0%）」が最も多く、次いで「配偶者（24.1%）」、「子ども（22.8%）」が続き、いずれも家族となっている（図表1－7－4）。

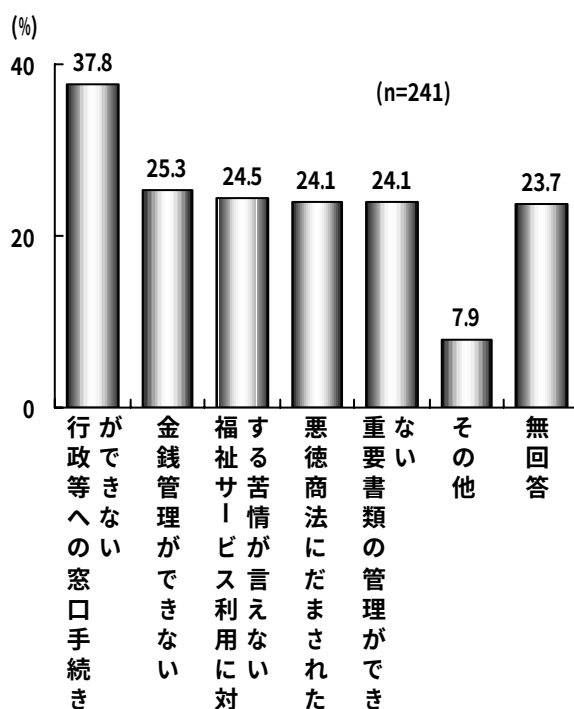
図表1－7－4 困っている人
＜困っている人がいると回答した人＞（全体／複数回答）



⑤ 事例（問30-2）

困っている人が「いる」場合、困っていることの事例については、「行政等への窓口手続きができない（37.8%）」が最も多く、「金銭管理ができない（25.3%）」、「福祉サービス利用に対する苦情が言えない（24.5%）」の順となっている（図表1-7-5）。

図表1-7-5 事例
 <困っている人がいると回答した人>（全体／複数回答）



(8) 要望

自由回答には全体で 799 件の記入があった。以下、主な意見を記載する。

<サービスへの要望：154 件>

- ・ 本人・家族の立場になって必要と思われる事を重点にやって進めて頂きたいです。(男性、70～74 歳)
- ・ 治療食を提供してくれる制度を望みます。宅配でなくても、レストラン風でも構いません。また治療食といっても、低カロリー・減塩ならいいのです。こういった飲食店がほとんどないので困っています。(女性、65～69 歳)
- ・ 介護判定の審査を正確に行い、病状に即した利用が速やかに出来るように尽力してもらいたい。(男性、70～74 歳)
- ・ かかりつけ医が近隣に無い。継続的なお付き合いから保健全般の相談が出来、予防医学上効果が高いと思う。地域住民と担当開業医を結びつける制度は出来ないもののでしょうか。(男性、65～69 歳)
- ・ サービス向上で甘やかされると益々増長すると思いますから、低いサービスでも優しい言葉で和顔愛語があれば、みんな喜んで下さると思います。(女性、80～84 歳)

<情報・PRの必要性：86 件>

- ・ 相談事が出来た時に、どこの窓口に、若しくは誰に相談して良いものかが分からない。そういった体系が分かりやすくまとまった資料はないのでしょうか。(女性、65～69 歳)
- ・ 広報紙ばかりでなく、対象者に個別に利用機関や内容など詳細なお知らせを送付して欲しい。その都度窓口に赴くのは大変である。(男性、65～69 歳)
- ・ 保健福祉や介護保険などといった言葉や仕組みが我々老人にとって何となく馴染みにくいのので、もっと分かり易く平坦に説明や施策を宜しく願います。(男性、75～79 歳)
- ・ 地域・町内会レベルでの説明会をして頂けるとあり難い。(男性、65～69 歳)
- ・ 内容や文字サイズ、配置、発刊時期、対象者への到達性などをもっと配慮して欲しい。(男性、70～74 歳)

<保険料・本人負担について：84 件>

- ・ 介護保険も失業保険と同様、相互扶助の精神で基本的には出来たものですが、高齢者に対する経済的負担が益々重くなっている昨今にあって、極力低い保険料で介護の受けられる様、府中市も努力していただければと思っています。(男性、65～69 歳)
- ・ 年金から引かれる保険料が公正且つ正確に使われているか。事業所本位で都合よく使われていないか。厳しい目で管理して欲しい。(女性、65～69 歳)
- ・ 年金生活者からの徴収は不要だと思う。(男性、65～69 歳)
- ・ 介護保険料が少し高いように思える。他自治体の保険料がどの程度なのか、少し詳しく広報等にて知らせてみて欲しい。(男性、70～74 歳)

＜将来的なサービス利用意向：58 件＞

- ・ 福祉事業に力を入れて下さっている事を有難く思っており、市の職員も親切で大変助かっております。年を重ねる事でお世話に成ることと思いますので、今後とも高齢者の為に宜しくをお願いします。(女性、75～79 歳)
- ・ 福祉に関してある程度のニュースは聞き及んでいます。介護保険の適用を受ける状況になったら、素早く・適切に・そして平等にと願っております。(女性、80～84 歳)
- ・ 万一介護の必要が生じた時はよろしくお願いします。知っている知っていないに関わらず、平等にサービスを受けられる市であって欲しいです。(男性、65～69 歳)

＜施設への要望：46 件＞

- ・ 介護を必要とする老人がこれから益々増えると思います。介護施設をもっと増やしてください。(女性、70～74 歳)
- ・ 軽費で入れる老人ホームがあったら、と思います。自宅でヘルパーさんをお願いすれば良いのですが、家族も本人も気疲れすると聞いた事があります。(女性、75～79 歳)
- ・ 少し費用が多くても、環境やサービス、医療など満足のいく施設があればよいと思う。体が思うようにならなくなった時、自宅（持家）を売っても入りたいようなホームがあれば願っています。(女性、65～69 歳)

＜今後勉強したい：42 件＞

- ・ 分からない事が多いので驚いています。今後もう少し知らないと困るような気がします。(女性、70～74 歳)
- ・ 高齢の為、何時か介護保険のお世話になるとと思いますが、あまりにも知らない事が多いので、今後勉強し経験者の方のお話も伺いたいと思います。(男性、85～89 歳)

＜まち・環境・地域づくり：37 件＞

- ・ 児童公園は多くありますが、高齢者が軽い運動の出来る公園の施設が欲しい。(男性、65～69 歳)
- ・ 歩道は自転車がとぼして危ないし、段差も気になるところが沢山あります。福祉や介護も大切なことですが、高齢者が積極的に街に出て生活できるようにしてほしい。(女性、75～79 歳)
- ・ 外出し易いようにちゅうバスの本数を増やして欲しい。乗る時間が 30 分近くあるのに立ったままとか、間隔が 30 分では少なすぎる。(女性、70～74 歳)

＜アンケートについて：27 件＞

- ・ このアンケートは集計して、市の広報かなにかで知らせて頂けるのでしょうか。(女性、70～74 歳)

＜自助努力が大切：25 件＞

- ・ 災害等が起こった時は、自分の身は自分で守らなければなりません。その為には年寄りだからと甘えず、常に体を使う事が必要です。(女性、75～79 歳)
- ・ 保健福祉、介護問題は基本的には個人、自分が守り努力が必要、周りを見ると行政への甘えが多すぎる。制度が充実すればするほど利用する人も多くなる。健全な利用が望まれる。(男性、65～69 歳)
- ・ 自分の体に対する自己責任の促進、自分の健康管理について不注意が多すぎる。勝手気ままな生活をして予防に対して無関心、悪くなったら国や自治体・地域がしてくれる。介護は保険なので他人様の世話にならないように日常気をつけるべき。こういった心掛けは促進してもらいたい。(男性、75～79 歳)

＜公正に公平に：25 件＞

- ・ 本当に生活に困って居る方を優先にしてあげてください。(女性、65～69 歳)
- ・ 介護保険については適確な認定と適正な介護サービスが行われるよう査定を行うよう希望する。(保険料の高騰を抑制する)(男性、80～84 歳)

＜サービス事業者に関して：15 件＞

- ・ 介護が営利目的の企業の手で行われることに大きな違和感があります。(男性、65～69 歳)
- ・ 安心して介護制度を利用出来るために、サービス業者の質の向上、そのための育成などを厳しく行って欲しい。(男性、70～74 歳)

＜ヘルパー・ケアマネジャー：12 件＞

- ・ ホームヘルパーさんを利用している方の満足しているお話をよく聞き嬉しく思っております。今後もケアマネジャー・ヘルパーさんの育成に力を入れてください。(女性、65～69 歳)
- ・ ケアマネジャーによって受けられるサービスが違ってくるという話を聞く。教育をしっかりして欲しい。(女性、70～74 歳)

＜高齢者向け住宅：9 件＞

- ・ 低所得者・高齢者が安心して住める住居（家賃の安い）及び施設を希望します。(男性、70～74 歳)

＜人材の質：8 件＞

- ・ よく、人の家庭内のことを他人に口外しているのを耳にする。人間だから仕方ないと言えばそれまでだが、多くの人達は相談するのを躊躇っているという。福祉関係に携わる人は口の固い人が良い。(女性、65～69 歳)

＜高齢者が働ける機会：7 件＞

- ・ 高齢者が働ける職場があれば介護を受ける人が少なくなるように考えます。(男性、65～69 歳)

歳)

- ・ 高齢者に働く意欲を持たせ筋力を落さないよう。「生涯現役」を植えつけるような手段をなにか考えて欲しい。(男性、70～74 歳)

＜介護予防：5 件＞

- ・ 介護されないための教育・勉強会を開く。市から個人宛に参加のお知らせを出すと、出席率が上がると思います。(男性、65～69 歳)

＜家族介護者への配慮：3 件＞

- ・ 家族介護者への支援制度の拡張をお願いしたい。(男性、70～74 歳)

＜感謝：49 件＞

- ・ 市の窓口の方が親切に対応してくれる。窓口は高齢者にとって最も安心できる相談者であるので心強い。(男性、70～74 歳)
- ・ 毎年広報による予算編成を見る度に、府中市の福祉に対する予算の割合配分が高いことを感じています。有難い事です。今後とも何分のご配慮をお願いします。(女性、70～74 歳)

＜現在は元気なので特に要望はない：59 件＞

- ・ 自分も夫もまあまあ健康でいる為、又身近にも困って居る人がいないので介護については無知です。自分がお世話にならないように、食べ物・体に良い事（運動など）をして病気にならない様に、怪我をしないようにと気をつけています。(女性、65～69 歳)

＜その他：48 件＞

- ・ 財政の府中・緑の府中・環境の府中・住みよい府中。皆さんで守っていこう、頑張っていこう。(男性、65～69 歳)
- ・ 介護以後の問題ですが・・・つまり市営（公営）墓地の充実を！（男性、65～69 歳）